

題字 故前田和三部名誉教授
発行所 東京都新宿区信濃町35
慶應義塾大学医学部
外科学教室同窓会(刀林会)
発行人 松本純夫

令和2年度定時社員総会(Web)を終えて



理事長 松本 純夫(52回)

令和3年(2021年)6月19日(土)に開催された社員総会は昨年に引き続きCOVID-19流行下でWeb開催となった。一般...

(86回)、小児外科 加藤源俊君(86回)を委員として構成された。役員候補者選出規則第3条(選挙区及び選出方法)規定は下記のごとくで、1 理事は、卒業...

令和2年度定時Web社員総会議事録

- 1. 日時 令和3年6月19日14時半から15時
発行場所 JCSコミュニケーションズ東京営業所
2. 出席した社員の数
①当法人の社員の数 51名
②出席社員数 45名
出席社員 松本理事長(52回)、北川副理事長(65回)...

教室構成員について北川教室主任より報告がおこなわれた。100周年記念として、記念講演会が行われたこと、記念誌を編纂中である旨も報告された。
2. 理事長より当法人の令和2年度における事業報告がなされた
3. 委員会報告
① 将来構想委員会 公益社団法人に移行せず一般社団法人を維持することが報告された。
② 広報委員会 『刀林』115号、116号が発行されたことが報告された。また、印刷会社を上野印刷所に代わったことも報告された。
③ 国際委員会 清水隆弘君(88回)に三橋記念国際交流基金より留学助成が行われたことが報告された
④ 学会支援募金 令和2年度は4学会の学会支援募金が行われたことが報告された

あること、その候補者の選出のため令和3年4月に選挙が実施されたことを報告した。続いて議長の指名により、選挙管理委員長菱田智之君(77回相)が役員候補者選出規則に基づきおおむね4年の卒業年次ごとに評議員の互選となったこと、22日に選挙管理委員立ち合いの元、開票された結果は資料6の通りとなったことを報告した。
議長は、下記の、同選挙により選出された者及び現職教授の合計15名を後任の理事として選任したい旨を述べ、これを議場に諮ったところ、異議なく、原案通り可決された。
理事 吉野肇一、松本純夫、窪地淳、石井良幸、黒田達夫、浅村尚生、北川雄光、志水秀行(以上、重任)
磯部陽、古川俊治、菅沼和弘、朝倉啓介、茂田浩平、近藤崇之、阿部純大(以上、新任)
第4号議案
監事2名選任の件
議長は、当法人の監事全員が本会の終結と同時に監事の任期が満了するため、その後任者を選任する必要があること、下記の通り、学内外の監事候補者各1名を後任の監事として選任したい旨述べ、これを議場に諮ったところ、異議なく、原案通り可決された。
監事 熊井浩一郎、尾原秀明(以上、重任)
第5号議案
令和2年度刀林賞選定の件
島津 刀林賞選考委員会委員長
令和2年度刀林賞選考会議が3月16日に行われ、6名の応募から
刀林賞・松田諭君(87回)

刀林奨励賞・茂田浩平君(85回) 坊岡英祐君(88回)が推薦された。3月22日の理事会では承認済みである。
議長は、以上の内容について議場に諮ったところ、異議なく、原案通り可決された。
議長は、以上をもつて本日予定した議事の終了を告げ、他に案件がないことを確認後、15時00分閉会を宣言した。
令和3年度臨時Web社員総会議事録
日時:令和3年6月19日(金) 15時半-16時
場所 JCSコミュニケーションズ東京営業所
出席
松本理事長(52回)、北川副理事長(65回)
吉野(44回) 市来(48回) 熊井(46回) 安藤(50回) 窪地(58回) 磯部(59回) 小澤(60回) 黒田(61回) 浅村(62回) 古梶(63回) 渡辺(64回)
志水(65回) 磯部(66回) 菅沼(67回) 川久保(73回) 齋藤(72回) 下島(76回) 菅沼(75回) 岡林(78回) 秋山(77回) 岡林(78回) 松原(79回) 朝倉(81回) 入野(82回) 和田(84回) 茂田(85回) 今井(89回) 前田(90回) 竹内(91回) 蛭川(92回) 水野(94回) 辻(95回)
委任状による出席
相川(47回) 幕内(49回) 竹中(54回) 久保内(55回) 古川(66回) 河地(68回) 原田(71回) 松原(79回) 半田(80回) 狩野(86回) 近藤(88回) 阿部(93回)
(以上、社員51名中46名)

出席) 尾原(72回) 出席) 尾原(72回)

上記の通り出席で、本定時総会は適法に成立したことから、定款により松本理事長は議長席に着き、開会を宣言した。

Web会議室システムにより、出席者の音声即時に他の出席者に伝わり、出席者が一堂に会するのと同様に適時的確な意見表明ができる状態となっていることが確認されて、直ちに議事に入った。

報告事項

1 代表理事(理事長)就任の件

議長は、午後2時30分定時社員総会により選任された資料1の役員によって午後3時に新理事会が行われ、代表理事(理事長)に選任され、本会の議長に就任した旨の挨拶をした。

2 副理事長就任の件

議長は、上記新理事会において、副理事長として北川雄光教授が就任したと、市来嵩潔君が理事長推薦理事として選任されることを条件に、理事会決議をもって副理事長に就任する予定であることが報告された。

3 新入会員の件

議長は、以下の3名の、当会への入会が上記新理事会において、承認する旨の決議があったことを報告した。

保坂靖子君(足利赤十字病院、推薦者浅村教授)

竹ノ谷隆君(荻窪病院、推薦者北川教授、村井萩窪病院長)

浜野郁美君(北里大学北)

里研究所病院、推薦者北川教授、石井良幸北里大学北里研究所病院副院長)

決議事項

第1号議案

令和3年度事業計画 議長が説明し満場異議なくこれに賛成し原案通り承認可決した

第2号議案

令和3年度予算 小澤財務委員長が令和3年度収支予算書について説明した。議長がこれを議場に諮ったところ、異議なく、原案通り可決した。

第3号議案

新入会員の件 議長は、報告事項3にて報告した以下の3名の当会への入会を、本社員総会で承認することを議場に諮ったところ、異議なく、原案通り可決された。

保坂靖子君(足利赤十字病院、推薦者浅村教授)

竹ノ谷隆君(荻窪病院、推薦者北川教授、村井萩窪病院長)

浜野郁美君(北里大学北里研究所病院、推薦者北川教授、石井良幸北里大学北里研究所病院副院長)

議長は、以上をもって本日予定した議事の終了を告げ、他に案件がないことを確認後、16時00分閉会を宣した。

以上の決議を明確にするため、この議事録を作成し、議長がこれに記名押印する。

令和3年度臨時Web 社員総会議事録

日時:令和3年10月26日(火) 18時半から19時

発信場所:外科学教室・脳神経外科学教室会議室

出席) 松本理事長(52回)、市来嵩副理事長(48回)、黒田副理事長(61回)

吉野(44回)熊井(46回)河瀬(49回、理事長推薦理事)安藤(50回)島津(53回、理事長推薦理事)

久保内(55回)窪地(58回)小澤(60回)黒田(61回)菅(61回、理事長推薦理事)浅村(62回)古梶(63回)渡辺(64回)北川(65回)志水(65回、学内教授)澤藤(67回)長(69回)石井(70回)齋藤(72回)川久保(73回)北郷(74回)菅沼(75回)下島(76回)秋山(77回)岡林(78回)朝倉(81回)森谷(83回)和田(84回)狩野(86回)松田(87回)近藤(88回)今井(89回)竹内(91回)蛭川(92回)水野(94回)辻(95回)

委任状による出席

相川(47回)幕内(49回)中西(51回)松原(53回)磯部(59回)河地(68回)原田(71回)監事尾原(72回)松原(79回)前田(90回)

議長は、以上をもって本日予定した議事の終了を告げ、他に案件がないことを確認後、16時00分閉会を宣した。

以上、社員51名中44名出席

監事・熊井(46回、社員)上記の通りの出席により、本定時総会は適法に成立したことから、定款により松本理事長は議長席に着き、開会を宣言した。

Web会議室システムにより、出席者の音声即時に他の出席者に伝わり、出席者が一堂に会するのと同様に適時的確な意見表明ができる状態となっていることが確認されて、配布資料の確認の後、直ちに議事に入った。

議事録署名名人に、議長である松本理事長、市来嵩副理事長、水野翔大(94回)が選出された。熊井浩一郎監事にも署名依頼をするとした。

報告事項

1 副理事長交代の件

議長より、以下の通り報告がなされた。社員各位もご存知の通り、北川雄光 教授が本年5月より塾の常任理事に就任した。

上記常任理事は、規程により教室主任を兼務することとは出来ないこととされており、5月に遡って小児外科黒田達夫教授が教室主任を務めることになった。浅村尚生教授も同時期に定年となるので、半期ずつ教室主任を務めることになった。よって副理事長も北川教授より黒田教授に交代となった。

続いて、北川教授より挨拶がなされた。黒田教授がその時点で未参加だったので、浅村教授より挨拶がなされた。

三橋記念国際交流基金留学助成決定の件

議長より、10月12日の理事会において、庄司佳晃君(88回)の留学助成が承認されたことが報告された。

決議事項

第1号議案

「定款の一部変更」議長は、今回提案する定款変更の内容は下表の通り(資料2)であるとし、提案理由を以下の通り説明した。

1. 提案の理由

①従前の「評議員会」、「総会」の表記について、法人化後の会議の名称である「社員総会」に表記を改める。

②理事の選任において、従前より選挙以外の方法で理事候補者となった者が必ずしも評議員ではなかった現状と平仄をとり、理事の被選任資格を正会員と改める。

③社員総会の議事録の署名又は記名押印の主体について、議長及び当該社員総会で選任された議事録署名名人2名とする旨定める。

④理事会の議事録の作成において、当会の理事が多数につき、出席理事全員からの押印を徴求することの負担が多大であることに鑑み、署名又は記名押印の主体を従前の出席理事全員から代表理事に限定する(出席監事が署名又は記名押印の主体であることは従前通り)。

令和3年度第1回Web 理事会議事録

日時:令和3年6月19日(金) 15時~15時半

出席) 吉野(44回)松本(52回)窪地(58回)磯部(59回)黒田(61回)浅村(62回)北川(65回)志水(65回)古川(66回)石井(70回)菅沼(75回)朝倉(81回)茂田(85回)近藤(88回)阿部(93回)監事・熊井(46回)尾原(72回)

議長は、以上の内容の賛否を議場に諮ったところ異議なく原案通り、承認された。

議長は、副理事長の北川雄光、市来嵩潔の両名が令和3年6月19日の定時社員総会をもって理事の任期を満了し、退任したことに伴い、代表理事の地位を失っているので、その後任者を選任する必要がある旨を述べて、その選任方法を諮ったところ、北川雄光理事より、事業の継続性に鑑み、下記の者を後任の代表理事として推薦する旨の発言があった。議長がこれを議場に諮ったところ、満場異議なくこれに賛成した。

第2号議案 副理事長選定の件

議長は、副理事長の北川雄光、市来嵩潔の両名が令和3年6月19日の定時社員総会をもって理事の任期を満了し、退任したことに伴い、代表理事の地位を失っているので、その後任者を選任する必要がある旨を述べて、その選任方法を諮ったところ、北川雄光理事より、事業の継続性に鑑み、下記の者を後任の代表理事として推薦する旨の発言があった。議長がこれを議場に諮ったところ、満場異議なくこれに賛成した。

報告事項

第4号議案

令和3年度予算承認の件 議長の指名により、小澤財務委員長は資料2に基づき内容の説明を行い、これを議場に諮ったところ、全員異議なく原案通り承認された。

第5号議案

新入会員の件 議長は、新入会員として、以下の者が推薦されたことを報告し、各々以下の推薦者より推薦の説明をさせた。

①足利赤十字病院 保坂靖子君(呼吸器)

推薦者:浅村尚生呼吸器外科教授

②荻窪病院 竹ノ谷隆君(一般・消化器)

推薦者:北川雄光教授

③北里大学北里研究所病院 浜野郁美君(一般・消化器)

推薦者:同上

議長は、以上の3氏について、当会への入会を承認することに同意し、議場に諮ったところ、全員異議なく原案通り承認された。

続いて、議長は、教室創立100周年祝賀会、阿部令彦名誉教授教室葬が来年

執行行われることに鑑み、市来嵩潔君(48回)を副理事長に推薦することを前提に理事長推薦理事とし、また他にも理事長推薦理事として河瀬斌君(49回)、島津元秀君(53回)小澤壯治君(60回)、菅貞郎君(61回)を推薦することを述べた。

第3号議案 令和3年度事業計画承認の件

議長は、資料1に基づき、松本理事長より内容の説明を行い、これを議場に諮ったところ、全員異議なく原案通り承認された。

報告事項

第3号議案

令和3年度予算承認の件 議長の指名により、小澤財務委員長は資料2に基づき内容の説明を行い、これを議場に諮ったところ、全員異議なく原案通り承認された。

第4号議案

令和3年度第2回理事会(Web)開催議事録

日時:令和3年10月12日(火) 18時半~19時半

出席) 吉野(44回)松本(52回)窪地(58回)磯部(59回)黒田(61回)浅村(62回)志水(65回)菅沼(75回)朝倉(81回)茂田(85回)近藤(88回)監事・尾原(72回)

議長は、以上をもって本日予定した議事の終了を告げ、他に案件がないことを確認後、16時00分閉会を宣した。

以上の決議を明確にするため、この議事録を作成し、議長がこれに記名押印する。

以上

定刻に至り、議長の松本純夫理事長が開会を宣し、本日の理事会が定足数をもって成立する旨を告げ、資料の確認のあと議事に入った。なお、議長は、審議に先立ち、Web会議システムにより、出席者が一堂に会するのと同様に適時的確な意見表明が互いにて

きる状態となつて、理事を確保した。

決議事項

第1号議案 定款の一部変更の件

議長は、定款変更の内容は下表の通り(資料2)であるとし、提案理由を以下の通り説明した。

①従前の「評議員会」、「総会」の表記について、法人化後の会議の名称である「社員総会」に表記を改める。

②理事の選任において、従前より選挙以外の方法で理事候補者となつた者が必ずしも評議員ではなかつた現状と平仄をとり、理事の被選任資格を正会員と改める。

③社員総会の議事録の署名又は記名押印の主体について、議長及び当該社員総会で選任された議事録署名人2名とする旨定める。

④理事会の議事録の作成において、当会の理事が多数につき、出席理事全員からの押印を徴求することの負担が多大であることに鑑み、署名又は記名押印の主体を従前の出席理事から代表理事に限定する(出席監事)が署名又は記名押印の主体であることは従前通り。

議長は、以上を議場に諮るとともに、事前に提案をしてきた吉野理事に対して発言を促したが、吉野理事からは議案の処理は議長の裁量に委ねるとの発言があった。

議長からは意見ないし質問がなかつたため、議長は採決をとる旨発言し、挙手の有無をもって賛否の意思を問うたところ、保留の意

思で挙手をしなかつた吉野理事を除く、出席理事全員が挙手をし、賛成多数により承認可決された。

第2号議案 副理事長交代の件

議長は、北川雄光教授が本年5月より塾の常任理事に就任したことで、規定により教室主任を兼務することができないとされてお

り、5月に遡って小児外科黒田達夫教授が教室主任を務めることになり、当会副理事長にも就任していただきたくし、副理事長の選任を提案した。

議長は、これを議場に諮つたところ、満場異議なく原案通り承認可決された。

被選任者である黒田教室主任は席上にて副理事長に就任することを承諾し、就任の挨拶をした。

第3号議案 国際留学支援の件

議長は、資料3をもとに、委員長の指名により、八木三橋記念国際交流基金の留学助成について、庄司佳晃君(2009年卒 消化器外科)が応募し、3月に開催された国際委員会では承認したことを述べ、当理事会における審議をお願いしたいと提案した。

議長がこれを議場に諮つたところ、満場異議なく原案通り承認された。

第4号議案 令和4年総会講演者の件

議長より、歴代の総会の講演者リストを提示(資料4)し、令和4(2022)年総会の講演者を選定する必要を述べたが、COV

ID-19により同総会の開催形式自体が定まらないため、継続審議とした。

第5号議案 臨時社員総会招集の件

議長より、社員総会の決議事項に関する定款第18条の規定では、第5号で定款の変更が定められていること

から、定款変更決議を目的として臨時社員総会を招集する必要があること、招集手続について定款第20条が2週間前までに招集通知を発しななければならないことを定めていること

から、臨時社員総会を2週間後の10月26日(火)18時30分頃に開催すること、開催形式はWeb会議システムとすることを提案した。

議長がこれを議場に諮つたところ、満場異議なく原案通り承認された。

以上の通り、議案の審議が終了した後、議長は、その他に意見がないかと問うとともに、吉野理事より第1号議案の定款変更の件に

関連し、事前に提案があつたことに触れ、同理事にその発言を促し、以下の通り質疑応答がなされた。

(1) 法人の事業 (吉野理事) 当会の事業として列挙する国際交流は教室が中心で、同窓会である当会の事業としてはなじま

ず、見直しが必要ではないか。 (議) 長 国際交流事業はコロナ流行により活動が制限されているが、三橋基金を利用して留学支援は実行している。コロナ流行終

息後の活動を見てから再考したい。 目途は現在の理事の任期中としたい。

(吉野理事) 理事長に一人する。

(2) 可否同数の場合の処理 (吉野理事) 理事会及び社員総会について可否同数となつた場合の議長決裁の規定を定款に設ける必要があるのではないか。

(堤弁護士) 文理解上疑義を招きかえつて適切でない。理事会は、議長(理事長)が1回目の採決で他の理事と共に議決に加わつて可否同数となつた場合、議長が決議すると更に1票入れた(2票与えられた)ことと同じ結果になり、1人1票の原則に反する。1回目の採決で議決に加わらずに可否同数となつてから議長が決議すれば、1回目の議決で最初から1票を投じて得られる結果と同じとなり、提案の文言を加える必要性がないことになる。社員総会については、議長である理事長が評議員(社員)である場合は、理事会のときと同じ説明となり、また、理事長が評議員(社員)でない場合、社員でない者が社員総会決議の内容を決することは、社員総会決議の意義を無にし、問題となる。

(吉野理事) 自分が見た定款の文例に関する文献で、議長は議決に加わらない、可否同数の場合は議長が決議するという例を見ている。

(堤弁護士) 少なくとも現在の会社法や一般社団法人法の下では適切でないと思われる。かつて別の法人の設立登記にあたり、可否同数における議長決裁の条文を出したところ、定款認証にあたる公証人より先程の説明を受け、修正を求め

られたことがある。委員会規則の改定の際には、委員会は内部の自治に委ねるものであり、特に問題視しなかつたが、理事会、社員総会と法律で規制されるものなので指摘させていただいた。

以上、本日のWeb会議システムを用いた理事会は、終始異状なく議題の審議を終了したので、議長は、以上をもって本日の議事は終了した旨を述べ、19時30分閉会を宣し、解散した。



漢方医学と西洋医学の融合により 世界で類のない最高の医療提供に貢献します

自然と健康を科学する 漢方の **ツムラ**

<https://www.tsumura.co.jp/>
●お問い合わせは、お客様相談窓口まで。
【医療関係者の皆様】Tel.0120-329-970 【患者様・一般のお客様】Tel.0120-329-930

日本標準商品分類番号 874291

抗悪性腫瘍剤/抗PD-L1^{注1)}ヒト化モノクローナル抗体
生物由来製品、劇薬、処方箋医薬品^{注2)}

テセントリク[®] 点滴静注 1200mg

アテゾリズマブ(遺伝子組換え)
注1)PD-L1(Programmed Death-Ligand 1)
注2)注意-医師等の処方箋により使用すること

※効能・効果、用法・用量、警告・禁忌を含む使用上の注意、効能・効果に関連する使用上の注意、用法・用量に関連する使用上の注意等は製品添付文書をご参照ください。

製造販売元 中外製薬株式会社 (資料請求用)メテカインフォームーション部
〒103-8324 東京都中央区日本橋室町2-1-1 TEL.0120-140564 FAX.0120-189705

©F. Hoffmann-L Roche社(スイス)登録商標

1999年3月作成

令和二年度
決算報告

令和2年度貸借対照表

(令和3年3月31日現在)

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増減
I 資産の部			
1 流動資産			
現金	174,278	66,378	107,900
普通預金	21,589,576	22,399,017	△ 809,441
貯蔵品	112,850	0	112,850
流動資産合計	21,876,704	22,465,395	△ 588,691
2 固定資産			
(1) 特定資産			
① 刀林基金			
普通預金	13,444,041	14,143,920	△ 699,879
刀林基金合計	13,444,041	14,143,920	△ 699,879
固定資産合計	13,444,041	14,143,920	△ 699,879
資産合計	35,320,745	36,609,315	△ 1,288,570
II 負債の部			
1 流動負債			
① 預かり金			
源泉所得税	2,040	8,300	△ 6,260
流動負債合計	2,040	8,300	△ 6,260
2 固定負債			
固定負債合計	0	0	0
負債合計	2,040	8,300	△ 6,260
III 正味財産の部			
正味財産	35,318,705	36,601,015	△ 1,282,310
正味財産合計	35,318,705	36,601,015	△ 1,282,310
負債及び正味財産合計	35,320,745	36,609,315	△ 1,288,570

令和2年度収支計算書総括表

(令和2年4月1日から令和3年3月31日まで)

(単位:円)

科 目	合計	一般会計	刀林基金	備考
I 収入の部				
① 会費収入	5,763,000	5,763,000	0	
② 広告収入	400,000	400,000	0	
③ 利息	219	50	169	
④ 寄付金	100,000	100,000	0	
⑤ 雑収入	0	0	0	
当期収入合計(A)	6,263,219	6,263,050	169	
前期繰越収支差額	36,601,015	22,457,143	14,143,872	
収入合計(B)	42,864,234	28,720,193	14,144,041	
II 支出の部				
1. 事業費				
① 「刀林」発行費	1,216,897	1,216,897	0	
② 総会補助	0	0	0	
③ 刀林賞賞金	700,000	0	700,000	
事業費計	1,916,897	1,216,897	700,000	
2. 管理費				
① 人件費	2,339,391	2,339,391	0	
② 通信連絡費	209,558	209,558	0	
③ 印刷発送費	575,015	575,015	0	
④ 会合費	1,600	1,600	0	
⑤ 慶弔費	261,800	261,800	0	
⑥ 運営管理費	1,337,520	1,337,520	0	
⑦ 雑費	903,748	903,748	0	
管理費計	5,628,632	5,628,632	0	
当期支出合計(C)	7,545,529	6,845,529	700,000	
当期収支差額(A)-(C)	△ 1,282,310	△ 582,479	△ 699,831	
次期繰越収支差額(B)-(C)	35,318,705	21,874,664	13,444,041	

一般社団法人慶應義塾大学医学部外科学教室同窓会

令和2年度会計監査報告

令和2年度収支決算報告書、財産目録に記載された内容及び金額に
記載の通り相違ありません。

令和3年 6月 // 日

一般社団法人慶應義塾大学医学部外科学教室同窓会(刀林会)

監事 熊井浩一郎

監事 尾原泰明

令和2年度財産目録

(令和3年3月31日現在)

(単位:円)

科 目	金 額	
I 資産の部		
1 流動資産(一般会計)		
現金		
現金手元有高	174,278	
普通預金		
ゆうちょ銀行		
慶應義塾大学医学部外科学教室同窓会	15,251,094	
三井住友銀行		
(一社)慶應義塾大学医学部外科学教室同窓会	2,423,532	
三井住友銀行		
慶大外科同窓会 代表 松本純夫	3,108,174	
ゆうちょ銀行		
刀林会募金委員会 代表 熊井浩一郎	806,776	
貯蔵品		
記念品	112,850	
流動資産(一般会計)合計		21,876,704
2 固定資産		
(1) 特定資産		
① 刀林基金		
普通預金		
三井住友銀行		
刀林基金 代表 松本純夫	13,444,041	
刀林基金合計	13,444,041	
固定資産合計		13,444,041
資産合計		35,320,745
II 負債の部		
1 流動負債		
預り金		
源泉所得税	2,040	
流動負債合計		2,040
2 固定負債		
固定負債合計		0
負債合計		2,040
正味財産		35,318,705

令和三年度 予算・事業計画

令和3年度収支予算書

(単位:円)

一般会計	R2/4/1~R3/3/31	R3/4/1~R4/3/31	来年度-当年度	備考
I 収入の部				
①会費収入	5,500,000	5,500,000	0	
②広告収入	400,000	400,000	0	
③利息	100	50	△ 50	
④寄付金			0	
⑤雑収入			0	
当期収入合計(A)	5,900,100	5,900,050	△ 50	
前期繰越収支差額	22,457,143	21,874,664	△ 582,479	
収入合計(B)	28,357,243	27,774,714	△ 582,529	
II 支出の部				
1. 事業費				
①「刀林」発行費	1,200,000	1,300,000	100,000	
②総会補助	0	0	0	
事業費計	1,200,000	1,300,000	100,000	
2. 管理費				
①人件費	2,000,000	2,400,000	400,000	
②通信連絡費	400,000	400,000	0	
③印刷発送費	300,000	600,000	300,000	
④会合費	200,000	10,000	△ 190,000	
⑤慶弔費	300,000	300,000	0	
⑥運営管理費	1,200,000	1,400,000	200,000	
⑦雑費	600,000	800,000	200,000	
管理費計	5,000,000	5,910,000	910,000	
当期支出合計(C)	6,200,000	7,210,000	1,010,000	
当期収支差額(A)-(C)	△ 299,900	△ 1,309,950	△ 1,010,050	
次期繰越収支差額(B)-(C)	22,157,243	20,564,714	△ 1,592,529	

刀林基金	R2/4/1~R3/3/31	R3/4/1~R4/3/31	当年度-来年度	備考
I 収入の部				
①利息			0	
当期収入合計(A)	0	0	0	
前期繰越収支差額	14,143,872	13,444,041	△ 699,831	
収入合計(B)	14,143,872	13,444,041	△ 699,831	
II 支出の部				
①刀林賞賞金			0	
当期支出合計(C)	700,000	700,000	0	
当期収支差額(A)-(C)	△ 700,000	△ 700,000	0	
次期繰越収支差額(B)-(C)	13,443,872	12,744,041	△ 699,831	

令和3年度 事業計画

1. 外科学に関する研究および研修の奨励
2. 刀林会会員が開催する学術集会への支援
3. 国際交流の推進
 - 会員留学・短期研修への支援
4. 刀林基金の管理
5. 機関紙「刀林」の発行およびホームページ運営
6. 会員相互の懇親
7. 会員の慶弔に関する事項
 - 阿部令彦名誉教授 外科学教室葬
 - 外科学教室100周年祝賀会
8. その他、本会の目標達成に必要な事業

全員集会を終えて



慶應義塾大学医学部外科
(一般・消化器)
岡林 剛史 (78回)

はじめてのweb開催となった刀林会全員集会(総会)の当日はあいにくの雨でした。本来であれば、みんなが旧交を温める場となるはずであったホテルオークラではなく、web配信会場として利用させていただくJCSコミュニケーションズ東京営業所へと寂しく向かいました。配信会場となる部屋は、お世辞でも広いとは言えませんでしたが、少し寂しい雰囲気でも、松本理事長、秘書の本間さんと私の3人で社員総会web配信を行いました。

社員総会の進行に不安がありました。多くの先生方がすでに学会等でweb配信に慣れており、滞ることなく「年間報告」、「会計報告」、「委員会報告」、「学会支援募金のお願い」を行うことができました。続いて行われた「刀林賞表彰」は、例年予定時間を超過してしまつたため、本年度の刀林賞(松田諭君(87回))および刀林奨励賞(茂田浩平君(86回)・坊岡英祐君(88回))受賞者には事前に受賞報告を録画してもらいました。この点はwebの特性を上

手く利用することができました。「新人紹介」では、3名の関連病院からの新入会者、1名の呼吸器外科特任助教、25名のD3新入室者の計29人の新規入会者の自己紹介をしました。web配信で見栄えよく、子気味よく進めるために、こちらも事前に録画した自己紹介を使用しました。

続いて特別講演として、慶應義塾大学医学部臨床遺伝学センター・小崎健次郎教授から「COVID-19変異株の動向」というタイトルでご講演をいただきました。小崎教授の研究では、COVID-19に対する全ゲノム解析を用い、その遺伝子変異を追跡し、臨床情報と突合することで新型コロナウイルスの病原性や感染性のメカニズムを明らかにしました。この研究成果は、COVID-19感染症の診断、治療、感染対策へ非常に大きな役割を果たすものであり、大変感銘を受けました。また、報道内容に一喜一憂するばかりでなく、科学者の視点を持ち、日常に研究者の視点を持ちながら過ごしていく大切さを痛感しました。

D3新入室者の中で、「一陽来復」を座右の銘とする先生が多くいました。「一陽来復」とは、「冬が終わって春が来ること」と、転じて「悪いことがしばらく続いた後に良いことが起こること」ということを意味する言葉になります。教室の未来を担う若い先生が、今まさに冬の時を過ごしていると感じざるを得ない研修状況にあることを暗示しているかと思うと、教室の専修医担当として心配になりました。一方で必ず春がやってくることもわかってはいます。今はその時に備えてしっかりと力をつけ、しっかりと前に進んでほしいと思います。教室は徐々に春を迎え、北川教授が慶應義塾常任理事となり、日本医師会医学賞を受賞し、諸先生方が学会を主催されるなど嬉しいニュースがたくさん出てきています。来年度の社員総会は是非とも盛大に開催し、活気に満ちた刀林会総会をぜひとも取り戻したいと思っております。

慶應義塾常任理事就任にあたって



慶應義塾大学医学部外科
(一般・消化器) 教授
北川 雄光 (65回)

2021年5月28日、伊藤公平 新塾長のもと医療全般(医学・看護医療学・薬学・大学病院・健康マネージメント研究科・保健管理センター・スポーツ医学研究センターなど)、塾員担当常任理事を拝命いたしました。今後、信濃町キャンパス、芝共立キャンパスさらには湘南藤沢キャンパスを舞台に、医療系3学部の緊密な連携を図りながら、慶應義塾としての新しい医療・教育・研究のあるべき形を追求し、義塾全体に貢献できますよう微力ながら力を尽くして参ります。さらに伊藤塾長からは、筆頭常任理事としてプロボストの役割を担うようご下命をいただきました。この役割は、長谷山塾長時代には教育・研究を統括する青山常任理事が担当されていた重たい役割であり、医学部教員から義塾執行部に入った者がこの役割を担当するのは極めて異例です。医療だけでなく慶應義塾の事業の三本柱である教育・研究・医療全体を俯瞰して、塾長を補佐しながら実務を統括する使命に身の引き締まる思

いでいます。新体制発足直後から、伊藤塾長の強力なリーダーシップのもとコロナによって閉ざされ分断された教学機能、キャンパスライフを取り戻すための切り札としての「全塾5万人コロナワクチン接種プロジェクト」に取り組みました。慶應義塾における職域ワクチン接種は全国に先駆けて2021年6月21日から開始され、のべ58日間で、49,320名に対して合計98,026回の接種を無事終えることができました。この事業においては、プロボスト、医療、塾員担当常任理事として関連省庁、自治体と協議しながらすべてのキャンパスの教職員、塾生を繋ぎ、大学病院・医療系3学部、三四会・紅梅会、KPP会・関連病院の皆様をはじめ複数の組織の力強いご支援をいただきながら活動しました。この事業を通じて、慶應義塾社中の温かさ、築き上げられてきた伝統の重みをあらためて感じることができました。現在は、予防医療センターの移転拡張事業にも取り組んでおります。2012年に3号館南棟にてスターとした同センターも手狭となり、より個別的で質の高い予防医療を実現するために、関連する共同研究講座の開設と同時に森ビル株式会社が開発する虎ノ門・麻布台地区に移転します。これを機に慶應義塾全体の叡智を結集して新しい未来型予防医療の実現を目指して参ります。

さて常任理事は、規程上病院長、教室主任とは兼任できないため、任期中ではありましたが急遽退任することとなりました。コロナ禍が続く中で、病院長代行(2021年9月から病院長)を引き受けてくださった松本守雄教授(整形外科65回)、教室主任をお願い受けた黒田達夫教授(61回)には大変感謝しております。2017年より拝命した大学病院長としては、新病院棟1号階への移転、働き方改革の推進、AIホスピタルモデル事業開始、がんゲノム医療中核拠点病院認定など皆様のご協力をいただき未来に向けた新しい事業に取り組むことができました。2019年には病院全体一丸となった高稼働高回転の病床運営により史上最高の医療収入・粗利益を達成することができました。しかし、2020年、病院開設10周年の記念すべき年に新型コロナウイルス感染症拡大という未曾有の危機に病院という立場で直面したことは極めて過酷な体験でした。皆様が大変なご心配、ご迷惑をおかけしてしまつた院内感染や研修医集団感染などの厳しい状況から何とか復興を遂げられましたのも刀林会の皆様をはじめ、慶應義塾社中の皆様のご支援のお蔭です。皆様からいただいた物心両面にわたる支えを深く胸に刻み、今後も塾員担当常任理事として慶應義塾を愛し、ご支援くださる多くの皆様に少しでもご恩返しができるように努めます。

2015年に脳神経外科学教室が独立した際、新しい専門医制度への対応、教室100周年記念事業の推進をミッションとして、教室主任を拝命いたしました。専門医制度におけるサブスペシャル型慶應関連外科専門研修プログラムは、黒田教授、浅村教授、志水教授、関連病院の皆様のご尽力により、新規登録者数は毎年全国トップレベルを誇る質・量ともに充実したものでなっております。コロナ禍の中で完全Web開催とはなりましたが、2020年8月には第120回日本外科学会定期学術集会を成功裡に終えることができました。教室員の皆様の献身的な努力により、2020年12月には教室100周年記念シンポジウムをWeb配信で開催し、100周年記念誌も完成いたしました。2022年7月にコロナ禍が落ち着いていけば、記念事業準備委員長としての最後の使命として教室開設100周年記念祝賀会を開催する予定です。教室開設100周年事業への温かいご支援、ご寄付をくださいました皆様にご場をお借りしてあらためまして厚く御礼を申し上げます。病院長・教室主任という学内の要職に加えて、日本外科学会会頭、日本癌治療学会理事長、日本消化器外科学会理事長、日本医学外科学会理事、日本医学会連合理事、日本学術会議会員などの外部での任務を何とか遂行できましたのも教室員、刀林会の皆様のおかげです。

現在、義塾執行部では「グローバルシチズン」として未来社会を自ら考え切り拓く「人材の育成を行うために様々な新しい活動に取り組んでおります。医学部関係者からは慶應義塾全体の研究を担う天谷雅行常任理事、義塾が世界に誇る優れた一貫教育・体育会を担当する山内慶太常任理事も誕生しましたので、互いに手を携えながら「進まざる者は必ず退き、退かざる者は必ず進む」の精神で、次の時代を先導する若者の育成に全力を注いで参ります。刀林会の皆様におかれましては引き続きご指導ご支援下さいますよう何卒よろしくお願い申し上げます。

抗悪性腫瘍剤
劇薬、処方箋医薬品(注意一医師等の処方箋により使用すること)

ロンサーフ® 配合錠 T15 T20
Lonsurf® combination tablet T15-T20
トリフルリジン・チピラシル塩酸塩配合錠

文献請求先及び問い合わせ先
大鵬薬品工業株式会社
〒101-8444 東京都千代田区神田錦町1-27
TEL.0120-20-4527 https://www.taiho.co.jp/

効能・効果、用法・用量、警告・禁忌を含む使用上の注意等につきましては添付文書をご参照ください。

2021年11月作成

血漿分画製剤(血液凝固阻剤) 薬価基準収載

ノイアート® 静注用 500単位 1500単位
Neuart® I.V. 500units, 1500units (薬価)(生物学的製剤基準 乾燥濃縮人アンチトロンビンⅣ)

【特定生物由来製品】 【処方箋医薬品】 (注) 注意-医師等の処方箋により使用すること

※効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等については、添付文書をご参照ください。

製造販売元
一般社団法人
JB 日本血液製剤機構

NAT-202110

【文献請求先及び問い合わせ先】
日本血液製剤機構 ぐすり相談室 〒108-0023 東京都港区芝浦3-1-1 医療関係者向け製品情報サイト https://www.jbpo.or.jp/med/dl/

外科学教室主任を拝命して



慶應義塾大学医学部外科
(小児)

黒田 達夫 (61回)

この度、前教室主任の北川雄光教授が塾の常任理事に就任され、教授会などでオプザーバーの立場に替わられることから、後任の教室主任を務めさせて頂くことになりました。私自身、2023年3月31日をもって定年・退任になることから、それまでの前半を私が、後半を呼吸器担当の浅村教授が、それぞれ教室主任を務める予定としております。

本学のプレゼンスの高さを対外的に示すことができたと考えております。

外科後期研修医の応募状況では、外科を目指す研修医数が各地域とも一律に伸び悩む中、本学は全国第2位の応募数を確保しております。地理的要因その他を勘案すると、研修医からの極めて高い期待と信頼が教室に寄せられているものと考えております。その背景は慶應義塾大学の外科グループ全体のレベルの高いうえに、外科医療と教育力、さらには大教室性による、外科の各分野の領域を超えた医療連携と研修システムの充実であると思っております。

外科学教室の方向性として、前教室主任の北川雄光教授が関連病院と大学が一体になった非常に良好な環境を築かれ、これを背景に第120回日本外科学会、教室100周年と大きな行事を盛大に成功させて来られました。教室ではこれに続いて令和3年中に第58回日本小児外科学会、第74回日本胸部外科学会の定期学術集会を開催致しました。慶應大学外科グループ全体でこれらの学会を盛り上げて成功裏に導いたことで、外科学の各領域においても

このような教室を中心とした慶應大学外科グループ全体の診療、研究、外科医育成における強い連携と、外科学の各分野における有機的な協力体制は慶應大学外科の宝として今後も堅持してゆきたいと考えております。一方で、個人的には長く学外の施設で仕事をし

川崎市立川崎病院病院長退任と川崎市病院事業管理者就任のご挨拶



金井 歳雄 (59回)

2021年9月に、川崎市病院事業管理者を福田川崎市長より拝命いたしました。2019年4月、平塚市民病院より川崎市立川崎病院に落下傘のように病院長として赴任したばかりでこのような状況は想定外でしたが、前任の増田純一管理者(53回、麻酔科)の健康上の問題が急に発生したことにより、急に発生したことにより、浅学非才で経験不足の身ではありますが、ご指名を受けましたのでお受けし、その地平を引き継いで最善を尽くすつもりでいるところで、

役立ちました。一方で川崎病院での本来業務は経営改革であり、永年の課題であった総合入院体制加算の取得等をCOVID-19騒動の力も借りて実現し、入院診療単価の2割増を達成しました。川崎病院では職員意識改革も進み、経営体型的に贅肉がとれアスリートのようになってきています。川崎病院での課題はまだありますが、後任病院長は神経内科の野崎博之君(66回)にお願いしました。外科は澤藤副院長(呼吸器外科)、市東外科部長、井上心臓血管外科部長、萬谷乳腺外科部長、和多田血管外科部長らが牽引してくれるものと思っております。

神奈川県内の慶應関連の外科は、11病院で、4K会を組織し、研究会を開いて若手の指導をしています。さらに、この会を基盤にして、日本外科学会に二人の代議員を送っています。金井は4K会会長も務めています。横浜市東部病院の三角院長とともに代議員を務めておりますが、今年度で両名共退任予定としております。ありがとうございます。病院長、さらに事業管理者となつて、ますます、臨床現場から遠いところで仕事をしようになりま

振り返れば、川崎病院での2年半のうち直近の1年半はCOVID-19対応に明け暮れていました。COVIDと闘うために、川崎に移ってきたようなものがあります。2020年3月のクルーズ船の初動から外国人感染者の対応に始まり、重症患者数201名と神奈川県下最大級の入院加算を担いました。平塚で培った災害医療のノウハウが極めて



は広い領域、特殊領域のがん治療、高難度手術、ロボット手術、救命救急医療に重きを、井田では一般的ながん手術、がん検診から緩和ケアまでのがん診療に力点を置いていきます。井田の外科は掛札副院長(血管外科)、櫻川外科部長がリ

学会紹介

第20回消化器外科学会大会 (JDDW2022)



東京医科歯科大学大学院 肝胆膵外科学分野 教授 田邊 稔 (64回)

このたび、2022年10月27〜29日に福岡で開催されますJDDW (Japan Digestive Disease Week) において第20回日本消化器外科学会大会会長を拝命しました、東京医科歯科大学大学院肝胆膵外科学分野の田邊稔です。慶應から医科歯科大学に赴任して早いもので9年になりますが、歴史と伝統ある日本消化器外科学会の学術集会を担当させていただくことになり、身に余る光栄に存じます。過去に8人の本学会総会長、大会長を輩出している刀林会の名に恥じない学術集会を目指す所存です。また、大会の準備・運営にご指導いただいております。日本消化器外科学会理事長の北川雄光先生には、心から御礼申し上げます。

JDDWは消化器疾患を扱う5学会(日本消化器外科学会、日本消化器病学会、日本肝臓学会、日本内視鏡学会、日本消化器がん検診学会)が共同で開催する学術集会です。毎年2万人を



超える参加者があり、外科医、内科医、内視鏡医などが領域を超えて諸問題を討議する大変貴重な場です。複数の学会が共同企画する統合プログラムでは、最近発展著しい低侵襲治療や癌免疫療法、依然として課題が山積する難治癌に対する治療戦略、近未来的に普及・実用化が見込まれるAI研究など、さまざまな話題を取り上げます。また、コロナ禍を契機に急速に変化した社会情勢に対応すべく、ポストコロナの消化器診療のありかたや、オンライン診療の導入など、将来を見据えた企画も用意しております。勿論、外科医でなければ語ることの出来ないロボット支援下手術の適応や技術論、腹腔鏡下手術とのすみ分けなどの技術論についても熱く語っていただきます。ご参加の皆様にとつて有益な学術集会となるよう、教室をあげて準備を進めております。本会が開催される2022年後半にはコロナ

第29回日本乳癌学会学術総会を終えて



杏林大学医学部 乳腺外科学 教授 井本 滋 (64回)

第29回学術総会は2021年7月1日から3日間、パシフィコ横浜ノースで開催されました。沖縄を除き緊急事態宣言は解除されましたが、新型コロナウイルス新規感染者数は再び増加傾向にあり、文字通り薄氷を踏む思いで過ごしました。ただ、久しぶりの対面から会場のあるこちに笑顔が溢れて、リモートにはない人の繋がりの大切さを再認識した次第です。総会前日の評議員・名誉会員懇親会では、千住真理子さんに300年の時を刻んだストラディバリウスを奏でていただき、緊張感のある日常から心身ともに解放されたひとときでした。

総会は「乳癌診療の新たな展望」を主題に、「New Horizons of Breast Cancer Diagnosis and Treatment」を副題としました。第1会場は3000名収容可能な所、15000席に減らし間隔を空けましたが、接触もなく安全かつ広すぎる印象でした。総会

は会長講演、総会(理事長)講演、特別講演(坂口志文先生、中西真先生)、招待講演(Monica Morrow先生、Carlos L. Arteaga先生)、シンポジウム、ワークショップ、ディベート、ジョイントセッション、厳選口演、ポスター討論、ミニポスター口演、eポスター、Meet the expert、委員会企画、各種セミナー、PAL、共催セミナーが行われました。現地開催に続き8月31日までオンデマンド配信されましたが、最終的に5435名が参加されました(現地参加954名)。

総会では個々の患者に相応しい医療を提供する最新情報が報告され、近未来像も示されました。また、総会自体がハイブリッドとなり、現地あるいはリモートで参加する新たな形態を実感した次第です。医療従事者のワクチン接種が現地開催を可能とした次第ですが、変異株は今後も出現することから開催形態について試行錯誤は続くものと思



令和3年度学会支援募金

1. 第52回日本心臓血管外科学会学術集會 会長 鈴木孝明(52回) 会期 2022年3月3日から3月5日 場所 パシフィコ横浜ノース
 2. 第35回日本内視鏡外科学会総会 会長 宇山一朗(64回相) 会期 2022年12月8日から10日 会場 ポートメッセなごや(名古屋国際展示場)
- ご支援ご高配を賜ります様、お願い申し上げます。
刀林学会支援募金事務局
03-5363-3800
mail: tourin-h@keio.jp

私の著書

「さらに高みを目指して」



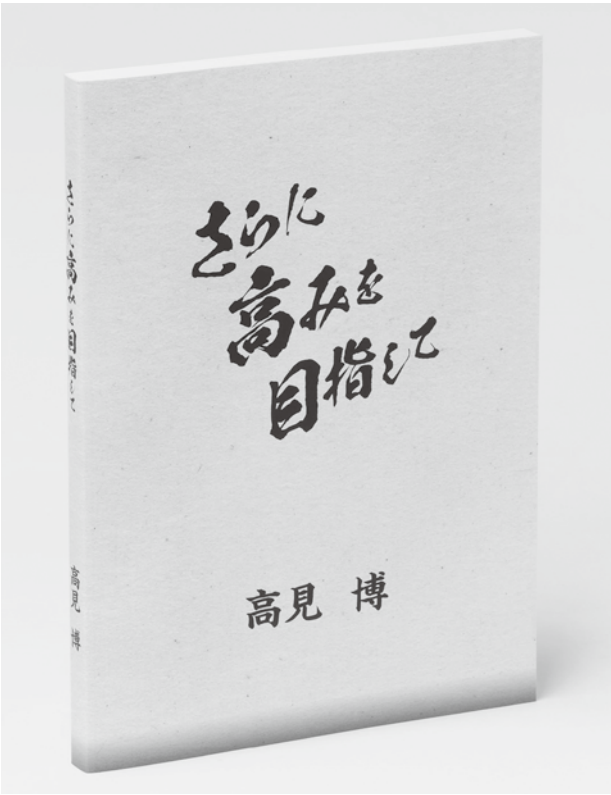
伊藤病院学術顧問・
帝京大学医学部外科
名誉教授
高見 博 (49回)

刀林新聞編集委員会から「卒業50周年」という節目の年に上梓しました「さらに高みを目指して」の著書の紹介文を寄稿するようにいわれました。学術・医学医療に関する本ではなく、純粋に自費出版の書物です。若干の戸惑いがありましたが、編集委員会のご説明を受けて、現在に至ったことをお許しください。本書を出版するきっかけは、2019年の初頭、北島政樹先生ご夫妻と私ども

の恒例の新年食事で、北島先生が「博君は帝京主任教授退任時に何の記念誌も出してないよね。この夕イミングで書いた方がいいよ。特別寄稿のトップは僕が書くから……」と言われました。そして、その半年後のとても悲しい出来事を経て上梓に到達できました。

本人内分泌外科医のボス、慶應義塾大病院院長(当時)・外科学教授(教室主任)北川雄光先生には、「高見博先生、卒業50周年記念、さらに高みを目指して、ご発刊に寄せて」、学校法人帝京大学理事長・学長沖永佳史先生には、「帝京大学から「世界の高見先生」へ祝辞」というお言葉をいただきました。本書は、私の医師・学者としての業績集で始まっており、私の魂を込めた毎日の仕事の総決算でございます。

具体的には、私のライフワークであり、私の腫瘍マーカー、甲状腺がんの遺伝子、患者にやさしい低侵襲性甲状腺・副甲状腺手術、内視鏡手術などが中心になっております。型のごとく業績の掲載の後、世界の一流の出版社から依頼を受けて編集した5つ



の医学雑誌の紹介、16の学会・研究会会長としての記録、高見家の歴史、そして「My Memory」として個人的なものも含めた写真集となっております。最後に、自分のためにこの数年勉強してきた抗加齢医学をもとに、一般市民・患者向けの「健康長寿のお話し」を掲載しました。専門家ではありませんが、偽りは書いていないつもりです。

2015年に進行甲状腺がんの分子標的薬(レンバチニブ、ソラフェニブなど)が発売されたことから、薬物療法の研究をしています。甲状腺がんと言えども、ゲノム医療、precision medicineの役割は大きく、年に3〜4回は甲状腺・内分泌関連の限られた範囲の学会ですが、特別講演、教育講演などを依頼されています。

最後に、もし本書に興味がありませんでしたら、ご連絡ください。h-takami@io-hospital.jp, 090-1600-2060。よろこんで早速お届けいたします。

新病院の目標は、高度急性期・急性期医療、周産期医療、小児医療、救命救急医療、感染症医療を提供し、地域の医療の中核となることです。

現在の医師数は研修医を含め182名で、在職中の刀林会員は18名、以下のメンバーが各分野で実力を発揮し、頑張っております。経営戦略特命参与 窪地淳(58回)、検体検査部門長 山藤和夫(55回相当)、一般血管外科科:朝見淳規(部長、66回)、藤井琢(85回相当)、消化器外科:馬場秀雄(部長、70回)、高橋剛志(84回)、藤田優裕(87回相当)、小泉亘(88回相当)、中太淳平(89回)、新井修(89回相当)、山下俊樹(92回相当)

大橋弥貴子(98回後期研修医)、呼吸器外科:堀之内宏久(院長、61回)、米谷文雄(部長、71回相当)、小児外科:大野通暢(部長、80回)、吉田史子(75回相当)、入江理絵(88回相当)、脳神経外科:嵯峨伊佐子(82回)。

3月から顕在化した新型コロナウイルス感染症に対しては、感染対策を徹底し、可能な限り一般診療と並立できる体制を取りました。重点医療機関として、2021年10月時点で790例を超える入院患者を治療しています。



核となるよう、たゆまず努力を続けてまいります。刀林会の先生方にはひきつづきご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

病院長
堀之内 宏久 (61回)

病院紹介

さいたま市立病院

さいたま市立病院は1953年に浦和市立伝染病院として開設、1972年浦和市立病院となり、1991年にさいたま市立病院と名称変更をして現在に至っています。2019年12月29日に新病院を建築し、637床(一般床547床、救急救命センター30床、結核・感染症病棟30床、身体合併症を有する症例の精神科病棟30床)で運営しています。

地域がん連携拠点病院として、外科治療に加え、高度照射機器(サイバーナイフ、TrueBeam)を設置、外来化学療法室20床、緩和ケア病棟20床とともに、切れ目のないがん診療体制を整えました。

2020年12月に救命救急センターの指定を受け、3次救急症例の対応を開始しています。

2020年3月から顕在化した新型コロナウイルス感染症に対しては、感染対策を徹底し、可能な限り一般診療と並立できる体制を取りました。重点医療機関として、2021年10月時点で790例を超える入院患者を治療しています。

病院紹介

国際医療福祉大学成田病院



副院長・消化器病センター長
国際医療福祉大学医学部
消化器外科教室主任教授
板野 理 (71回)

国際医療福祉大学成田病院は、2017年4月に開学した同大学医学部の基幹病院として、千葉県成田市畑ヶ田に昨年3月16日に開院いたしました。コロナウイルス感染拡大により逼迫した県内の医療状況を鑑み、当初の予定より一か月前倒ししての開院となりました。現在、36診療科、11臨床センター、病床数324床で運営されており、順次、642床まで増床する

予定です。
2021年11月現在の消化器外科構成員は主任教授の板野理(71回)、以下肝胆膵グループ・星本相淳准教授(74回)、皆川卓也講師(88回)、上部消化管グループ・大山隆史准教授(78回)、平野佑樹講師(83回)、島田理子講師(88回)、下部消化管グループ・鶴田雅士准教授(79回)、石田隆講師(86回)の8名のスタッフと大学院生一名で

す。消化器外科の全麻手術症例数は2020年(4月-12月)が計198例、2021年が現在まで(1月-10月)計372例(肝切除16例、膵切除17例、食道6例、胃37例、結腸・直腸87例、など)と急激に増加しており、来年度は肝胆膵領域では日本肝胆膵外科学会高度技能専門医修練施設(B)、下部消化管領域では大腸肛門病認定施設への申請を予定しております。

ロボット手術に関しては開院当初から積極的に取り組んでおり、10月末日までに、直腸癌手術43例(今年度33例と千葉県では最多)、膵体尾部切除2例を施行しました。また、全ての救急搬送の患者様を受け入れることをモットーに、週2-3例の緊急手術をこなしています。

医学部教員として、国際医療福祉大学医学部・成田看護学部・成田保健医療学部で授業を担当しています。本学の特徴である、医学部1-2年生の英語での授業、アクティブラーニングなどを実践し、医学部臨床実習も昨年4月より開始されています。卒業教育に関しては、来年度より成田病院を基幹病院とする「国際医療福祉大学成田病院外科専門研修プログラム」が日本専門医機構に承認されました。

以上のように、大学病院として急ピッチで整備が進められており、スタッフの負担も日々増して来ていますが、全員一丸となって取り組んでいます。今後コロナの状況も改善してくると、本学の大きな柱である海外医療協力や海外患者の受け入れも開始されると思われ、大学附属病院としてさらに大きく飛躍できるように、日々邁進してまいります。

今後ともご指導・ご鞭撻のほどどうぞ宜しくお願いいたします。

ロボットの手術に関しては開院当初から積極的に取り組んでおり、10月末日までに、直腸癌手術43例(今年度33例と千葉県では最多)、膵体尾部切除2例を施行しました。また、全ての救急搬送の患者様を受け入れることをモットーに、週2-3例の緊急手術をこなしています。



令和2年度「刀林賞」
選考結果について



刀林賞選考委員会 委員長
医療法人社団幸隆会
多摩丘陵病院 院長
島津 元秀 (53回)

令和2年度刀林賞には6篇という多数の論文が応募されました。今回の刀林賞選考委員会は昨年同様コロナ禍の影響で対面ではなく、令和2年3月16日にWeb形式で開催いたしました。事前に12名の選考委員に投稿論文を送りし、全員から詳細な査読評価を頂きました。いずれも非常に優れた論文であり選考に苦慮しましたが、評価表の集計結果を基に慎重審議を行いました。

その結果、最も評価が高かったのは松田 論論文で、全会一致で刀林会刀林賞に推薦しました。選考理由として、食道癌における術前化学療法奏功例の術後再発形式を多数の症例で詳細に検討し、遠隔転移再発の頻度が有意に低いことを示し、術前化学療法奏功例に対する手術適応ならびに手術回避治療の可能性について重要な知見を明らかにしたこと、また全国的な多施設共同研究に発展していること、などが挙げられました。

他の論文も多くの委員が刀林賞または刀林会奨励賞に値するとの評価でしたが、中でも茂田浩平論文と坊岡英祐論文の評価点数が高く、この2編を刀林会奨励賞に推薦しました。茂田論文は最近注目されている免疫チェックポイント阻害剤(抗PD-1抗体)とtyrosine kinase inhibitor (Regorafenib)の併用効果とその作用機序を詳細に検討した基礎研究であり、biomarkerの開発および腫瘍微小環境を標的とした新規治療の開発など、臨床応用が期待される意義のある研究と評価されました。

坊岡論文は75歳以上の高齢者食道癌に対する術前化学療法は、PSOの患者に対して生存期間の改善に寄与しないばかりか、PSIの患者に対してはむしろ予後を悪化させるという重要な結果を示した臨床研究でした。しかし単施設・少数例の後向き検討であり、今後の多施設前向き研究が望まれます。

今回は非常に優秀な論文が多く、惜しくも落選した方々には今後も研鑽を積んで、是非とも次の機会にチャレンジして頂きたいと思っております。

令和3年3月22日の理事総会および6月19日のWeb社員総会での審議を経て、最終的に今回の選考結果が承認されました。

なお今回の選考委員会は共著者または親族であるため当該論文の審査を辞退する委員がいましたが、刀林賞は慶應外科同窓会の内部の賞であるので、選考委員が共著者であることも多く、慣例では共著者も審査を行っていました。今後は刀林賞選考委員会規則を改定して、委員が利益相反を有する場合は自己申告により論文評価の遂行または辞退を決めることができることを明文化するように検討したいと思います。

刀林賞を受賞して



慶應義塾大学医学部外科
(一般・消化器)
松田 諭 (87回)

外科学(一般・消化器) 松田諭と申します。この度は、刀林会 刀林賞という大変栄誉ある賞をいただき、大変光栄に感じております。

安藤暢敏先生がご先導さ

れ、Japan Clinical Oncology Group (JCOG) により行われた JCOG 9907 試験以降、本邦における外科的切除可能進行食道扁平上皮癌に対する標準治療は、術前化学療法 (Neoadjuvant chemotherapy: NAC) 後の手術となっており、現在そのさらなる成績向上目的としたランダム比較試験が進行中です。術前化学放射線療法が主体の欧米では、その高い完全奏効率から、術前治療著効例において手術が回避され得るのかという臨床疑問が提起されており、一方で、手術回避により、本来得られるはずであった根治の機会を逸してしまうことは避けなければなりません。そのため、NAC 奏効例における、遺

残腫瘍の分布を明らかにすることを目的とし、上部消化管班の同輩であります岡村明彦先生(癌研有明病院)と協同し、2施設共同後ろ向き観察研究を実施いたしました。

本課題は、2020年の日本食道学会研究課題に採択され、国内約5000例の食道癌患者さんのデータを用いて現在検証中です。食道癌に対する集学的治療成績の向上により、他臓器浸潤や遠隔転移を伴う高度進行食道癌に対する根治的手術の実現可能性が高まる一方で、これまで手術が最適な根治治療であった患者さんの一部では、手術回避の流れが生じることが想定されます。低侵襲化が進み安全性が高まる手術と、臓器温存治療の1つである化学放射線療法の中長期的な安全性の比較など、解決すべき課題は多いのが現状ではありますが、本研究結果が、食道癌に対する低侵襲個別化治療実現の一助となればと考えております。

慶應義塾大学病院と癌研有明病院において、NAC 後に手術を行った患者を対象とし、NAC 奏効群と非奏効群に分類、予後、再発形式との関連を検討いたしました。結果として、NAC 奏効例においては、術後無再発生存期間、全生存期間が良好であるという結果を得たことに加え、再発形式について、非奏効群は領域リンパ節内再発が25%以下であったのに対し、NAC 奏効群において、60%以上が領域内再発であり、遠隔転移再発の頻度が有意に低いことが明らかとなりました。

本検討により、NAC 奏効例においては遠隔部位の腫瘍がほぼ消失し、術後中長期にわたっても、腫瘍が領域内に留まることが示さ

刀林奨励賞を受賞して



慶應義塾大学医学部外科
(一般・消化器)
茂田 浩平 (85回)

この度は、伝統ある刀林会 刀林奨励賞を受賞し、大変光栄に存じます。日頃よりご指導いただきありがとうございます。北川雄光教授、岡林剛史先生および研究・論文の村明彦先生、および本研究の共同研究者の先生方にご場をお借りして心より御礼申し上げます。また、刀林賞という大変栄誉ある賞にご選出をいただきましたこと、刀林会 理事長松本純夫先生、刀林賞選考委員会委員長 島津元秀先生をはじめ、刀林会の先生方に深く御礼申し上げます。

この度は私が受賞いたしました論文は、'Journal for Immunotherapy of Cancer' に掲載された 'Regorafenib combined with PD-1 blockade increases CD 8⁺ T-cell infiltration by inducing CXCL 10 expression in hepatocellular carcinoma.' になります。

肝細胞癌 (HCC) の治療において、切除不能症例に対しては Sorafenib が有用な治療として確立しておりますが、その効果は限定的であり、新規治療の開発が急務となっております。近年、HCC に対する抗 PD-1 抗体や抗 PD-L1 抗体を用いた免疫治療が

効果的であることが報告されました。さらに、単独治療では奏効率が20%台と低く課題となっておりましたが、血管新生阻害薬と併用することにより奏効率40%弱まで向上することが報告されました。しかし、免疫チェックポイント阻害薬と血管新生阻害薬のシナジー効果については不明な点が多く、分子メカニズムの解明が待たれておりました。本研究では、血管新生阻害作用を持つ Multi kinase inhibitor である Regorafenib を用い、その投与

量を調節することで腫瘍血管の剪断を防ぎ、免疫抑制性の環境となることを調節できることがわかりました。その結果、同所移植モデルで至適投与量の Regorafenib と抗 PD-1 抗体の併用療法により有意な生存期間延長効果があることを示しました。さらに、ケモカインの一つである CXCL 10 とそのレセプターである CXCR 3 に着目し、signal activator and transducer or transcription (STAT) 3 阻害を介した STAT 1 の活性化によって CXCL 10 産生を促進し、腫瘍内への細胞障害性 T 細胞の Recruitment を促進することを初めて実証しました。このように本研究は免疫チェックポイント阻害薬の奏効率上昇のための分子メカニズムの一端を解明した点で重要であると考えております。

本受賞を励みに、今後臨床及び基礎研究どちらも多くの知見を世界に発信していくべく精進してまいります。今後ともご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。



刀林奨励賞を受賞して



浜松医科大学
外科学第二講座
坊岡 英祐 (88回)

この度は栄誉ある刀林奨励賞を受賞することができ、大変光栄に存じます。平素よりご指導頂いており

ます北川雄光教授、川久保博文准教授、竹内裕也・現浜松医科大学外科学第二講座教授に厚く御礼申し上げます。また直接論文のご指導を賜りました坪佐恭宏・静岡がんセンター食道外科部長には心より御礼申し上げます。

私は大学院(がんプロフェッショナルコース)卒業後、ポスドクターとして済生会横浜市東部病院で2年間、静岡がんセンター食道外科で2年間勤務した後、2021年4月より浜松医科大学外科学第二講座で勤務しております。受賞対象となったのは「Annals of Surgical Oncology」誌に掲載された「The negative impact of preoperative chemotherapy on survival after esophagectomy for vulnerable elderly patients with esophageal cancer」とい

う論文で、静岡がんセンター食道外科の臨床データを後ろ向きに解析したものです。

我が国のStage 2/3胸部食道癌の標準治療は術前化学療法+手術ですが、これは安藤暢敏先生(50回)が研究代表を務められたJCOG9907試験の結果を反映したものです。しかしながら臨床試験の対象は75歳以下であるため、高齢者に対する術前化学療法の意義は現在のところ不明です。今回の静岡がんセンターのデータを用いた研究では75歳以上80歳以下のStage 2/3胸部食道癌患者を術前化学療法施行群と非施行群に分けて比較検討しました。結果は高齢者に対する術前化学療法はPS0の患者に対しては全生存期間の改善に寄与せず、PS1の患者に対しては極めて予後不良因子であることが示されました。今後、75歳未満は術前化学療法+手術、75歳以上は手術単独と年齢別に標準治療が異なる



る precision medicine に繋がる論文と考えております。本受賞を励みに、今後とも上部消化管領域において多くの新しい知見を発信出来るように精進して参ります。今後ともご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願ひ申し上げます。

第58回日本小児外科学会学術集会
収支決算書

■収入の部

項目	合計
I. 参加費	16,992,000
II. 展示会出展料	4,185,492
III. セミナー共催費	9,900,000
IV. 広告掲載費	1,518,000
IV. 補助金・寄付金・その他	12,700,000
V. 受取利息	65
収入の合計	¥45,295,557

■支出の部

項目	合計
I. 事前準備費	1,136,779
II. 当日運営費	35,351,829
III. 事後処理費	189,197
IV. 業務委託費	4,321,839
V. 日本小児外科学会へ繰入	4,295,913
支出の合計	¥45,295,557



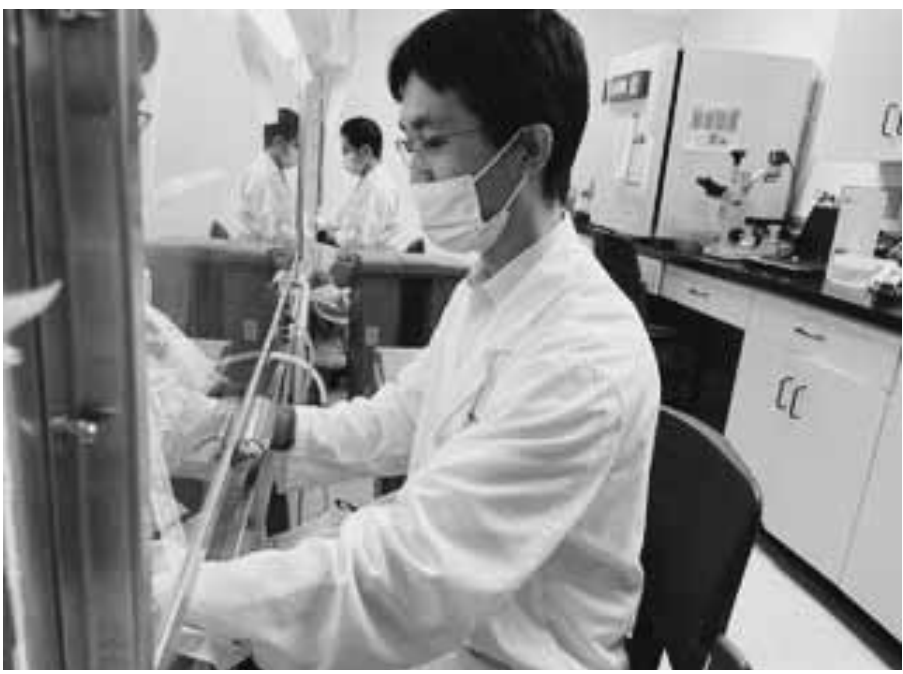
留学報告

Saint John's Cancer Institute



横江 隆道(88回)

外科学(一般・消化器) 89 外科を経て、2021年1月より米国カリフォルニア州サンタモニカにある Saint John's Cancer Institute (以前は John Wayne



Cancer Institute) に留学し、Dr. Dave S.B. Hoon のご指導の元で研究をしております。Saint John's Cancer Institute は、Providence Saint John's Health Center に併設され

構築。1) 2) の乳癌の研究は同僚である庄司佳晃先生(88回生)と共に取り組み、1) は米国乳癌学会 SABCS にて発表予定で、まもなく論文を投稿します。3) は当院泌尿器科医

ロサンゼルスでの生活は、物価が日本の約2倍、スペイン語人口が多く英語が通じない場合があるなど、不便なこともございますが、年間を通じて気温が安定した気候と自然が多い環境の中で、充実した日々を過ごしております。米国内での新型コロナウイルス感染症も予断を許さない状況ではありますが、10月には3回目のワクチン接種も済み、注意して生活しております。

ボストン MEEI

一般・消化器外科所属、89回生の齋藤慶幸と申します。私は外科サブスペシャリティ6領域のうち内分泌



手術室にて Randolph 教授と

リティ6領域のうち内分泌外科を選択した異色の経歴で、北川雄光教授の御高配により2020年12月から米国 Boston の Massachusetts Eye and Ear Infirmary (MEEI) の Division of Thyroid and Parathyroid Endocrine Surgery (内分泌外科「甲状腺・副甲状腺」)で臨床研究に従事しております。MEEI はマサチューセッツ総合病院(MGH)の隣に位置し、渡り廊下でつながっている施設となります。MGHと同様、ハーバード大学医学大学院附属病院となり、医学

齋藤 慶幸(89回)

学生の参加は大いに助けになりました。直近では医学



一緒に研究をした医学生たちと

況下での留学生生活をスタートしましたが、今となっては貴重な体験となりました。最後にりましたが、留学の機会を与えてくださった北川雄光教授、尾原秀明先生、川久保博文先生、留学に際し御指導賜りました高見博先生、ならびに刀林会の諸先生方に心より御礼申し上げます。2021年12月に帰国予定で、その後は甲状腺専門の伊藤病院に

Centre for Heart Lung Innovation



田島 佑樹(89回)

2021年4月よりカナダのバンクーバーにあるブリテッシュコロンビア大学セントポール病院のCentre for Heart Lung Innovation (HLI) に Postdoctoral research fellow として留学をさせていただいております。バンクーバーは、カナダの西海岸に位置する人口約60万人の都市で、海や山に囲まれ、車を郊外に走らせればすぐ大自然を満喫できる素敵な都市です。また、カナダは世界でも有数の移民国家であり、国際色豊かなことも特徴で、バンクーバーでも世界各地の料理を楽しむことができます。

バンクーバーのダウンタウン内にあるHLIは、呼吸器・循環器・血管疾患の研究に重点をおいた研究機関です。慶應義塾大学外科からは30年以上に渡って諸先輩方が留学されており、慶應とのつながりが深い研究所です。現在日本からの研究者は私1人ですが、海外からの研究者も多く、韓国、中国、フランスなど多岐に渡っています。私の所属する研究室は、HLIの現DirectorでもあるSin教授が主催されており、COPDや、最近ではCOVID-19の研究など多岐に渡っています。その中で私は、肺気腫に対するラジオ波焼灼治療の研究に携わっています。本研究は10年前から続くプロジェクトで、げつ歯類を用いた小動物実験から、豚を用いた大動物実験に移行したところで、私の留学が開始となりました。現在、肺気腫モデル豚の作成、及び正常豚に対するラジオ波焼灼の安全性の確認を中心の研究を進めています。このプロジェクトは、他の2つの研究室、ラジオ波の技術を有する企業、郊外の大学内の動物実験施設と共同して行っており、研究者のバックグラウンドも大きく異なっています。外科医の背景をもつ研究者は私1人であり、これまでの外科医としての臨床経験、レジデント時代の基礎研究の経験が、研究を進めるのに非常に役立っていると実感しています。

渡航後の隔離や移動制限など厳しい制限がありましたが、ミーティングも全てオンラインで行われていました。その後ワクチン接種が進み徐々に行動制限が緩和されました。9月からは研究室のミーティングも対面で行われるようになり、より充実した日々を送っています。

最後に、貴重な留学の機会を与えてくださいました北川雄光教授、岡林剛史先生ならびに外科学教室、刀林会の皆様にご心より感謝申し上げます。

渡航した当初は、COV-



研究室の同僚との食事



ウィスラーでの家族写真

Massachusetts General Hospital, Edwen L. Steele Laboratories



森田 覚(91回相)

私は2021年4月より米国ボストンのマサチューセッツ総合病院放射線腫瘍学、Edwin L. Steele Laboratoriesにて研究留学をさせていただいております。当教室はRakeen Jain教授が統括する8つの研究室から成る大きな教室です。私はその中でトランスレーショナルリサーチを専門とするPrincipal Investigator (PI)であるDan G. Duda博士の研究室に所属しております。Duda先生のもとにはこれまで一般・消化器外科より落合大樹先生、星野好則先生、茂田浩平先生、菊池弘人先生、呼吸器外科より羽藤泰先生が留学され、慶應

義塾とのつながりが深い研究室であります。私の研究テーマは腫瘍微小環境の改善による腫瘍免疫の賦活と新規治療法の検討です。主に肝細胞癌を対象とし、免疫チェックポイント阻害剤を含めた種々の薬剤による抗腫瘍効果とその機序の解明に挑戦しております。従来の分子生物学的な手法は勿論、研究室に蓄積された多彩な生体イメージングの応用、さらには次世代シーケンサーの導入及び実践と、これら全てに携わり日々研究に没頭しております。コロナ感染の現状としましては、マサチューセッツ州内においてはワクチン接種の普及に伴い好転し、



PIのDan先生とともに

様々な制限が解除されてきておりますが、まだまだ緊張感の高い状況であります。しかしながら、新興感染症が蔓延した現在だからこそ、オンラインでの講演や会議などが以前よりも活発となりました。その結果、今までにない新しいコラボレーションや出合いは増加し、これらはプロジェクトを進める追い風となり、貴重な人脈形成の機会にもなっております。

渡米して半年が経過しました。今も語学や環境に戸惑うことはありますが、見たことや聞いたことのない体験の連続に日々大変感動しております。非常に恵まれたこの環境に感謝しながら、時間を大切に一所懸命に学び、努力して参りたいと考えております。残りの留学期間でどのような経験ができるのか、非常に楽しみにしております。最後になりましたが、留学に際してご高配を賜りました北川雄光教授、尾原秀明先生、岡林剛史先生、ならびに刀林会の諸先生方皆様に深く感謝を申し上げます。

米国ボストン留学記



横瀬 崇寛(92回)

2021年4月より米国ボストンにありませすマサチューセッツ総合病院(MGH)に留学させて頂いておられます。ボストンはハーバート大学やマサチューセッツ工科大学、タフツ大学などの教育・医療機関や医薬系企業が多く、米国国立衛生研究所から受ける研究費総額が全米一の学術都市であり、その中でもMGHはトップクラスの研究機関です。私自身はCenter for Transplantation Sciences Colvin/Alessandri研究室に所属し、Alessandri先生

にご指導を頂いております。当センターは16の研究室と80人の研究者からなり、マウス、ブタ、非ヒト霊長類において様々な臓器移植モデルを作成し臓器横断的な移植免疫の基礎研究を行うだけでなく、臨床応用との橋渡し研究も積極的に行なっています。また周辺に多くの教育・医療機関や医薬系企業があるためMGH内に留まらず外部との共同研究も活発です。Colvin/Alessandri研究

室は、移植免疫寛容でノーベル生理学・医学賞を受賞したSir Peter Medawarの弟子でマウス心移植モデルを最初に確立した外科主任教授 Russell 先生が立ち上げ、腎移植病理での拒絶の診断基準であるBanff分類を作成した病理教授 Colvin 先生が引き継がれ、現在は Alessandri 先生と共同で運営されています。2020年のパンデミックの影響もあり、現在ボストクが私1人、テクニシャン1人でマウスの心・腎移植モデルでの免疫寛容誘導を研究しています。私自身は顕微鏡下手術による心・腎移植モデル作成や免疫寛容における制御性T細胞の役割に関する研究テーマを頂き、日々研究に勤んでおります。移植免疫は私にとって新しい分野であり学ぶことも多く、語学の壁もある私にとって厳しい環境ではありますが、可能な限り多くのことを学びたいと考えております。

留学当初の2021年4月はワクチン接種の普及と感染者数減少に伴い経済活動が徐々に再開し、5月にはCDCガイドラインに従いマスク着用義務がなくなりました。9月には感染者数の増加とデルタ株流行に伴い屋内でのマスク着用義務が再開しましたが、それでも夏には花火や屋外での音楽を楽しむ、テニスやランニングなどスポーツを楽しむことができました。一方で徐々に日照時間も短く寒さも本格的になってきており、ボストンの冬をこれから迎えることになりそうです。

最後にになりましたが、留学という大変貴重な機会を与えてくださった北川雄光教授、尾原秀明先生、北郷実先生、聖マリアンナ医科大学腎泌尿器外科科学篠田和伸先生、ご指導・ご支援を頂きました新見正則先生はじめ、慶應義塾大学外科学教室、刀林会の皆様には心より御礼申し上げます。

下呂市に帰り開業して25年、私も今年70歳となりました。現在、飛騨地区に居る慶應義塾大学医学部出身者は、私一人のため飛騨三田会(会員数24名)に所属しております。下呂市は、岐阜県の中央に位置する山間地で、人口31,000人、現在の高齢化率は41%です。10年後には50%に達すると予想されており、積雪量は多くは有りませんが、シーズン中3〜4回の除雪が必要になります。此の頃は毎年の集中豪雨で被害が出ており、全国報道されております。市内には2つの公立病院が有り、2次救急までを担っていたいただいております。3次救急は高山市かへリコプターで岐阜市まで搬送され幾多救命されました。

当地でもコロナ感染症は昨年より散発的に発症しておりますが、全例、病院にて対応して頂き、発熱外来受診の指示のみで、診察・診断した症例は有りません。コロナワクチン接種は、集団接種が終了し個別接種が続いています。私の公的業務としては定期健康診断、通年の乳児から高齢者への予防接種、保育園、小学校の学校校医、2か月に1回の休日診療所勤務が有ります。一般診療は0歳から100歳までを対象に『なんでも屋』を開店しております。湿疹、上気道炎、脳血管障害後、心疾患の経過観察等の内科、整形外科疾患も多く外来対応可の骨折、変形性関節症への理学療法、注射も施行しております。外傷は、農作業中や林野作業中に発生することが多く原因器具も包丁や鎌、鉈、電ノコ、チェーンソー等々です。チェーンソーの傷は、下腿以下に集中します。足背の場合は腱損傷、骨損傷を伴うので病院にお願いいたします。下腿創には対応していません。害虫傷も多様で蜂、毛虫、マダニ、百足、蛭と春から夏に集中します。因みにハチアレルギイのエピペン処方、2名です。在宅看取りを希望される方も有り訪問看護ステーションと連携し往診しております。死亡診断は年6〜7例です。カレンダー通りの毎日診療、週1〜2回のパチンコ、週3回のゴミ出し、月1回のゴルフ、月2回の外食を続けてきましたが、私も当院の医療機器同様、耐用年数を過ぎてきました。今後は、後継者を探し円滑な譲渡を目指して行きます。昨年の2月以降、上京しておりません。来年は皆さまにお目に掛かれます様祈っております。

地域便り



中田 宗彦(55回)



地域便り



香貫医院 北條 正久 (59回相)

静岡県沼津市に父北條重久(32回)の有床診療所を3代目として継承して25年となりました。診療所の屋上からは北に富士山、東に箱根の山、南に駿河湾越しの天城山が眺望できます。静岡県は東西に広く東部、中部、西部に分かれており、それぞれの風土と住人の気質も異なります。沼津市はかつて御用邸があり避暑地でもあったため静岡県東部の商業の中心都市でした。しかし、隣の三島市に新幹線の駅ができ、東海地震の予測が発表され、さらに東日本大震災の津波の被害以降は海浜地区を中心に人口の減少が続いています。市内で一番賑わうのは港の魚市場周辺でコロナ下でも県外ナンバーの車が溢れています。沼津医師会は2市2町が一体となっており会員数約370人と大所帯です。最近では割合が減りましたが多くの会員が地元の出立高校の出身者のため、出身大学よりも高校の卒業回数をまず聞かれ戸惑いました。市内では高校の同級生が4名開業しています。基幹病院としては従来から静

岡医療センター(旧国立東静岡病院)、沼津市立病院、順天堂大学静岡病院が有りましたが、隣の長泉町に静岡県立静岡がんセンター(総長 山口 建 53回、内科)ができたため、静岡県東部だけではなく県全体の医療情勢も変わりました。仕事の方は開業医なので市の検診事業、ワクチン接種、外科1次救急当番を含めて何でも診ますが、父の後を継ぎ肛門科主体に腸班(大腸内視鏡、ポリペクトミー)しています。痔核の手術は硬化療法が進歩し患者さんのニーズも有りほとんどが外来手術となり入院患者は減少していますが、一方で高齢化社会やストレス社会の影響で直腸脱を含めた肛門括約筋不全や潰瘍性大腸炎が増加しています。趣味の方は市内に4か所ゴルフ場が有り月2回の医師会関係のゴルフに参加し、学生時代にとつた杵柄でヨットを大学時代の同級生と伴に駿河湾と西伊豆でデイクルーズや釣りをしています。また、箱根へ古いオープンカーでドライブや富士山麓の人工スキー場(「日本一早く開場」が売り)で60歳以上の子供料金で怪我しない程度にスキーも楽しんでいます。私事では長女(耳鼻科医)次女(歯科医)はそれぞれ独立し、また良き伴侶に恵まれ来年には爺になれる予定です。人生100年時代と言われる昨今、様々な日帰りレジャーを楽しむ地に生まれ育ったことを感謝しこれからも仕事と趣味を可能な限り継続して行きたいと思っています。



地域便り

私が住む佐野市は栃木県の南西部に位置し北端を観る光地日光に接する南北約30Kmに細長く伸びた町です。



ここ数年ひと夏に一度は「本日、日本一暑かった都市」と佐野がメディアに報道されます。暑さの理由は南面は広大な関東平野を望むものの、東北西部三面を山に囲まれ盆地的な地形からもたらされる気象現象のようです。食ではB級グルメの火付け役ともいえるラーメンの売り込みを30年前程より町をあげて展開、ラーメンを食べにお越しいただいた方もおられるのではないかと思います。さて栃木県はご存じのように慶應関連病院を多く配し当地は佐野厚生、隣接足利市には足利日赤がございます。私はチーフ出張で佐野厚生に赴任し約5年間の勤務の後当地において平成5年9月に開業致しました。外科系を前面にと当初は意気込んでスタートいたしましたがいざフタを開けてみると、医師の過疎化が深刻な土地柄も相まって、高血圧、糖尿病、コレステロールといった成人病、つまり内科色のクリニックにすっかり染まっています。経営的にも佐野では外

科に特化した医院ではリスクが伴うのかなとも思えます。とは言いつつも血管出身の私としては侵襲の少ない外科診療をと欲張り、下肢静脈瘤だけに絞って開院当初より治療をはじめ現在も細々と続けております。ここで私の近況をお話いたします。コロナ禍の影響で県外への移動が激減、そんな中一度は熱が冷めたゴルフを再開しました。周辺にゴルフ場だけはたくさんあります。天気さえ良ければ時間の空いた午後コースに出かけます。スコア云々より足、腰の衰え予防を目的としたエンジョイゴルフです。もう一つ楽しんでいられるものに落語の口演があります。10年程前から高座に上がらせてもらっています。元来寄席に足を運ぶのが楽しみの一つでしたが、ひよんな事から舞台への興味が湧き、表現の側に鞍替えしました。「寿限無」「時そば」など前座囃しから今では好きな人情囃しも含め20席ほどのレ

加藤 正二郎(62回相)



パートリーになりました。また私は生来の競馬好きが高じ現役競走馬を現在2頭所有しております。これまでの私の中央競馬の戦績は84戦8勝。何ともお粗末な勝率(9・5%)、数字が示す通り収支は言わずもがな、度外視です。競馬は勝敗の行方を自らの努力でコントロール出来ない。わかつてはいても、勝負をかけた一瞬のドラマから足を洗えず、競馬場へ出掛けては勝ち負けに一喜一憂しながら競馬を楽しんでいます。以上ご当地佐野と私の近況をお話しさせていただきました。ありがとうございました。

なでしこ外科医



国際医療福祉大学成田病院
島田 理子 (88回)

この度はなでしこ外科医としての寄稿の機会をいただきありがとうございます。88回生の島田理子です。私は2009年に慶應義塾大学医学部を卒業し、慶應義塾大学外科学教室へと入局いたしました。2013年に大学に帰室後は上部消化管班へと進み、多方面からがん医療を学べるという臨床系の大学院であるがんプロフェッショナル養成プラン(がんプロ)に惹かれ選択しました。北川雄光先生、竹内裕也先生にご指導賜り、『早期胃癌に対するセンチネルリンパ節生検の有用性に関して』を研究テーマとして学位を取得いたしました。がんプロ生として学んだことはがん医療に携わる中で根幹をなしているものであり、貴重な経験であったと思っております。

期間は多くの手術経験を積むことができ、自分のペースながらも日々成長を感じられる充実した環境でした。温かくご指導賜りました先生方には感謝の気持ちでいっぱいです。

さて現在所属しております国際医療福祉大学成田病院は2020年4月に開院した医学部を併設する新しい病院です。板野理先生の名も含めたスタッフ8名で開院当初より診療に携わっております。何も無いところからのスタートは不安も大きなものでしたが、前例がないということには逆にあらゆる可能性を秘めているものと捉え、日々前向きに取り組んでおります。当院は『世界に通用する医師を育てる』ことが大学としての理念でもあり、教育面には重点があたっております。男女問わず外科領域に興味を示す医学生も多く、消化器外科の中でも成長しているような魅力的な教育システムの構築が不可欠であると感じます。多様な個性が尊重され、男女ともに輝き続けることができるような環境作りを目指し

て、自身の果たせる役目を果たして行きたいと思っております。最後にありますが、今後とも外科医としてさらに研鑽を積み、患者様にとって最良の医療を提供できるように日々精進して参ります。また、アカデミックな立場として常に新しいものを探求する心を忘れず、発信し続けることができるような存在でありたいと思っております。今後ともかわらぬご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願いたしました。

この度は「なでしこ外科医」への寄稿という貴重な機会を与えて頂き、どうもありがとうございます。90回相当の前田日菜子と申します。

私は初期臨床研修を東京歯科大学市川総合病院で行いました。当時外科部長をされていた松井淳一先生、乳腺班として赴任されていた高山伸先生に熱心に指導を受けたことをきっかけに、慶應の外科学教室への入局を決めました。しかしながら、やはり外科といえば男性社会のイメージがあり、本当に女性外科医として成長できるのか不安は尽きませんでした。当時の私の不安を解消してくださったのが、高橋麻衣子先生でした。私とは10学年以上離れており、まだ当初初期臨床研修医だった私からは、大学で乳癌診療をやられている「素敵な女性外科医」として眼に映ったのを記憶しております。自分もこんな女性外科医になりたいと思ひ、そこから外科医としての修練がスタートしました。

入局後最初の2年間は平塚市民病院、済生会宇都宮

病院への出向でした。ここでの2年間で外科の基礎を一から教わりました。どちらの施設もハイポリウムセンターで、朝は日が昇る時間から、夜は暗くなるまで病院で過ごしていた記憶があります。その時間が今自分の基盤となつている様に思います。2015年4月に帰室し、希望の乳腺班に所属させて頂きました。大学での3年間はこれまでに経験したことのない、基礎研究への着手や海外学会への参加など、数多くの学びの機会を頂き、乳腺外科医として大きく成長できる充実した時間となりました。林田哲先生を中心とした乳腺班スタッフの先生方には心より感謝申し上げます。

2018年4月から現在に至るまでは、ポストチーフとして北里大学北里研究所病院に赴任させて頂いております。赴任当時は、日々の診療に追われる毎日でした。2019年4月からは常勤で五月女恵一先生が赴任され、非常勤でいらしている池田正先生と2人の大先輩の乳腺外科医の先生と共に日常臨床に取り組むことができ、大変恵まれた環境でポストチーフとしての生活を送らせて頂いております。また昨年10月に第一子を出産し、「乳腺外科医」兼「母」となりました。子育てと仕事を両立していく生活を目の当たりにし、これまで以上に、石井良幸先生を始めとする外科スタッフの先生方や家族の理解、協力を日々支えられて働くことができていると痛感しております。改めて皆様に感謝すると共に、その気持ちを忘れることなく乳腺外科医として日々の医療に邁進して参りたいと思っております。そしていつの日か、私自身も「こんな女性外科医になりたい」と思っている様な外科医になれる様、努力していく所存です。今後ともご指導のほど宜しくお願い申し上げます。

なでしこ外科医



北里大学北里研究所病院
外科(乳腺)
前田 日菜子 (90回相)



外科学教室 新入室者紹介



大久保 祐
(90回相)

平成23年に地元の長崎大学を卒業後、神戸市立医療センター中央市民病院で初期および後期研修を修了

し、築地のがんセンター中央病院で5年間外科修練して参りました。令和3年に、浅村尚生教授の手術を学ばせて頂きたく、外科学教室に入室し、現在慶應義塾病院で勤務させて頂いております。
若輩者ではありますが、教室医局員、また刀林会員の名に恥じぬ活躍が出来るよう精進致しますので、御指導、御鞭撻の程何卒よろしくお願い致します。

98回生



安藤 拓
(98回)

出身高校：慶應義塾志木高等学校
出身大学：慶應義塾大学

部活動：水泳部(専門：平泳ぎ)
この度慶應義塾大学医学部外科学教室に入室させて頂きました安藤拓と申します。初期研修を川崎市立川崎病院で修了し、現在は上尾中央総合病院で研修させて頂いております。先生方から日々熱心なご指導を賜り、充実した研修環境に感謝しております。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



池田 惇平
(98回相)

出身高校：成蹊高等学校
出身大学：北里大学
部活動：硬式テニス部

この度、慶應義塾大学医学部外科学教室に入局致し

ました。池田惇平と申します。慶應義塾大学病院での研修中、慶應外科の崇高な医療に触れ、入局を決意しました。現在は永寿総合病院にて修練しております。
学生時代は10年以上続けた硬式テニスに没頭しておりました。その経験を活かして、粘り強く、プレッシャーに打ち勝ちベストな結果を出せる外科医を目指し日々修練に励みます。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。



石井 直樹
(98回相)

出身高校：早稲田高校
出身大学：杏林大学

部活動：準硬式野球部

本年度、慶應義塾大学外科学教室に入局致しました。石井直樹と申します。初期臨床研修は済生会横浜市東部病院で行い、現在はけいゆう病院にて修練を開始しております。外科医としてこれから精進して参ります。ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。



大城 雄基
(98回相)

初めまして、現在川崎市立立井田病院にて、外科研修をさせて頂いております。大城雄基です。私は高校を卒

業せず、高校卒業程度認定試験に合格し、聖マリアンナ医科大学に進学いたしました。慶應大学では、98回相当の卒業となります。大学では部活動には所属せず、前職の中古車販売店にてアルバイトをしながら大学生活を送っております。まだまだ未熟者ですが、先生方の様な上級医を目指して日々成長していきたいと思っておりますので、今後ともよろしくお願いたします。



大橋 弥貴子
(98回)

出身高校：日本女子大学附属高校
出身大学：慶應義塾大学
部活動：バドミントン部

この度、慶應義塾大学外科学教室に入局致しました。大橋弥貴子と申します。現在はさいたま市立病院で先生方に丁寧なご指導のもと、修練を積ませていただいております。今後ともご指導ご鞭撻のほど、何卒宜しくお願致します。



海ヶ倉 紀文
(98回相)

出身高校：鶴丸高等学校
出身大学：鹿児島大学
部活動：硬式テニス部

この度外科学教室に入居させて頂いた海ヶ倉紀文と申します。現在は川崎市立川崎病院で、熱心な先生方のもと日々充実した研修生活を送らせていただいております。また血管班を志望させて頂いてお参ります。今後とも精進して参りますのでご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願申し上げます。



亀山 友恵
(98回相)

出身高校：横浜雙葉高校
出身大学：東京女子医科大学
部活動：バドミントン部

この度、慶應義塾大学外科学教室に入居させて頂きました亀山友恵と申します。済生会横浜市東部病院での初期研修を経て、現在共済立川病院で研鑽を積ませて頂いております。日々、諸先輩方からの温かいご指導の下、充実した日々を過ごしております。精一杯精進して参りますので、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願申し上げます。



川本 潤一郎
(98回)

出身高校：慶應義塾高校
出身大学：慶應義塾大学
部活動：野球部

今年度より慶應義塾大学医学部一般・消化器外科学

教室に入局させて頂いた。98回生の川本潤一郎と申します。慶應義塾大学医学部を卒業し、東京歯科大学市川総合病院で初期研修を終了、今年度から日野市立病院外科で修練しております。先生方の熱い指導を受け、外科医としてのスタートを切っております。今後は、患者さんに信頼される外科医を目指して日々精進していく覚悟です。今後ともよろしくお願いたします。



清河 駿樹
(98回)

出身高校：開成高校
出身大学：慶應義塾大学
部活動：スケート部

此度は伝統ある刀林会への入会を承認いただき、誠にありがとうございます。私は、2015年に慶應義塾大学医学部を卒業し、2

017年に慶應義塾大学産婦人科学教室へ入局しました。市中病院への出向を経て2020年に帰室、同年に産婦人科専門医を取得しました。産婦人科では、卵巣癌や子宮内膜症など腸管や肝臓など腹腔内臓器の関与がとて多く、消化器外科領域疾患の理解を深めたいと思ひ、今年度より外科研修をさせて頂いてお参ります。このような機会を頂き、慶應義塾大学外科学教室に感謝しております。若輩者ではありますが、ご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願申し上げます。





熊谷 知子 (98回相)

出身高校：東京都立西高等学校
出身大学：杏林大学
部活動：管弦楽部

本年度、外科学教室に入

局させていただきます。初期臨床研修を初年度平塚市民病院、次年度慶應義塾大学病院で修了し、現在は湘南東部総合病院で厚くご指導を賜っております。昨年の秋、教室への入局を叶えていただき、いま非常に充実した日々を送らせていただいていることに心より感謝しております。今後もよく学び、精進して参ります。今後とも何卒ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願ひ申し上げます。



近藤 彩 (98回相)

出身高校：都立駒場高等学校
出身大学：東京女子医科大学
部活動：フットサル部

この度、慶應義塾大学外科学教室に入局させていただきました。近藤彩と申します。稲城市立病院、慶應義塾大学病院で初期臨床研修を修了し、現在は、練馬総合病院で外科研修をさせていただきます。学びの多い日々を過ごさせていただいており、これからも一杯精進してまいりますので今後ともご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願ひいたします。



櫻田 明久 (98回相)

出身高校：仙台第三高等学校
出身大学：日本大学
部活動：山岳部

この度、慶應義塾大学外科学教室に入局させていただきました。櫻田明久と申します。現在、埼玉メディカルセンターにて、外科研修をさせていただいております。日々、諸先輩方からの温かいご指導の下、非常に充実した研修生活を送っております。至らぬ点、多々あるかと存じますが、今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願ひ申し上げます。



塩野 泰良 (98回)

出身高校：洛南高校
出身大学：慶應義塾大学
部活動：端艇部

この度、慶應義塾大学医学部外科学教室に入局させていただきました。塩野泰良と申します。静岡赤十字病院で初期研修を修了し、現在は浜松赤十字病院で外科研修をさせていただいております。今後とも御指導御鞭撻のほど何卒よろしくお願ひ申し上げます。



四方 翔平 (98回)

出身高校：麻布高校
出身大学：慶應義塾大学
部活動：競走部

本年度、慶應義塾大学外

科学教室に入局致しました。四方翔平と申します。さいたま市立病院での初期研修を経て、現在は済生会宇都宮病院にて外科の修練を積んでおります。日々熱心なご指導、沢山の貴重な経験を頂いていること大変感謝しております。至らぬ点も多々ございますが、弛まず精進して参りますので、ご指導ご鞭撻のほど何卒宜しくお願ひ申し上げます。



杉野 功祐 (98回)

出身高校：武蔵高校
出身大学：慶應義塾大学
部活動：バスケットボール部

本年4月より慶應義塾大学医学部外科学教室に入局させていただきました。杉野功祐と申します。現在は、那須赤十字病院で、スタッフの先生の丁寧なご指導、ならびにコメディカルの方々のサポートもあり、充実したresident生活を送っております。未熟な点も多いかとはございますが、今後とも宜しくお願ひ致します。



杉山 祥基 (98回)

出身高校：麻布高等学校
出身大学：慶應義塾大学
部活動：アメリカンフットボール部、山岳部

本年度、慶應義塾大学外科学教室に入局いたしました。杉山祥基と申します。小児外科を志望し、さいたま市立病院での初期臨床研修でもたくさんのことを学ばせていただきました。現在は日本鋼管病院にて日々弛まず精進しております。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひいたします。



砂村 賢 (98回相)

出身高校：桐朋高校
出身大学：北里大学
部活動：ウインドサーフィング部

この度、慶應義塾大学医学部外科学教室に入局させていただきました。砂村賢

と申します。国立病院機構埼玉病院での初期研修終了後、現在は多摩丘陵病院で外科研修をさせていただきます。臨床、学会発表ともに島津院長をはじめとする先生方からの熱心なご指導をいただき、充実した研修を送っております。日々前進し続ける情熱を忘れずに、人間として、外科医として成長して参りたいと思っております。将来は、胆道班を志望しております。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひいたします。



富田 祐輔 (98回相)

出身高校：桐蔭学園高等学校

出身大学：札幌医科大学
部活動：スキー部、合唱部
この度、慶應義塾大学外科学教室に入局させていただきました。富田祐輔と申します。初期臨床研修を平塚市民病院で修了し、現在は国立病院機構埼玉病院にて専攻医として研鑽を積み重ねて頂いております。日々精進して参りますので、ご指導ご鞭撻のほど宜しくお願ひ致します。



中瀬 晃宏 (98回相)

出身高校：高田高校
出身大学：山梨大学
部活動：ハンドボール部

今年度より慶應義塾大学外科学教室に入局させていただきました。中瀬晃宏と申します。三重県松阪市出身です。将来の志望科は、心臓血管外科を志望させて頂いております。現在は国際医療福祉大学熱海病院に出張させていただきます。今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願ひ申し上げます。



西田 真由
(98 回相)

出身高校：佐野日本大学
高等学校
出身大学：東邦大学
部活動：硬式テニス部

済生会宇都宮病院での初期研修後、現在は稲城市立病院で外科研修をさせていただいております。手術に限らず、様々な経験をさせていただき、諸先生方からの温かい指導を賜りながら充実した日々を送っております。至らぬ点が多くご迷惑をおかけいたしますが、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いたします。



原 裕明
(98 回相)

出身高校：長野県松本深志高校
出身大学：鹿児島大学
部活動：硬式野球部

学部外科学教室に入局させていただきました。原裕明と申します。現在は足利赤十字病院で外科研修をさせていただいております。諸先生方の温かいご指導の下、多くの手術を執刀させていただき、とても感謝しております。至らぬ点が多く、ご迷惑をおかけしますが、精一杯精進して参ります。今後ともご指導、ご鞭撻の程、何卒宜しくお願申し上げます。

この度、慶應義塾大学医

部活動：ゴルフ部



平塚 寛生
(98 回相)

出身高校：埼玉県立浦和高等学校
出身大学：順天堂大学

この度、慶應義塾大学外科学教室に入局致しました。平塚寛生と申します。初期研修を国立病院機構埼玉病院で修了し、現在は静岡赤十字病院で研修をおこなっております。外科医として日々成長できるよう精進していく所存です。至らぬ点もあるかとは思いますが、今後ともご指導ご鞭撻のほど宜しくお願いたします。



星 勇氣
(98 回)

出身高校：慶應義塾高等学校
出身大学：慶應義塾大学
部活動：硬式テニス部

この度、慶應義塾大学医学部外科学教室に入局させていただきました。星勇氣と申します。日本赤十字社医療センターでの初期研修を経て、現在は公立福生病院にて研修をさせていただいております。これからは一生懸命、外科医としての職務にあたってまいります。今後とも御指導御鞭撻の程よろしくお願いたします。



堀之内 友紀
(98 回)

出身高校：成蹊高校
出身大学：慶應義塾大学
部活動：三四会競走部

この度、慶應義塾大学外科学教室に入局させていただきました。堀之内友紀と申します。静岡赤十字病院での初期臨床研修を経て、現在は平塚市民病院で充実した外科研修をさせていただいております。至らぬ点は多々あるかと存じますが、精一杯精進する所存ですので、今後ともご指導ご鞭撻のほど、何卒宜しくお願申し上げます。



渡邊 真祥
(98 回相)

出身高校：慶應義塾高等学校
出身大学：東京医科大学
部活動：アメリカンフットボール部

この度、慶應義塾大学外科学教室に入局させていただきました。渡邊真祥と申します。済生会宇都宮病院での初期臨床研修を経て、現在は佐野厚生総合病院で研鑽を積ませていただいております。大変多くの手術症例を執刀させていただき、充実した研修を送っております。至らぬ点が多々あると思っておりますが、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いたします。

刀林会入会

保坂 靖子
(80 回相)

出身高校：浦和第一女子高校
出身大学：新潟大学

この度、浅村尚生教授のご高配により刀林会に入会させていただきました。保坂靖子です。

主に、新潟大学病院とその関連病院で呼吸器外科の修練を積んでまいりました。令和3年4月より足利赤十字病院に勤務させていただきます。至らぬ点が多いと思っておりますのでご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いたします。



浜野 郁美
(85 回相)

このたび、渡邊昌彦先生の御高配により、北里研究所病院に入職させていただきました。浜野郁美と申します。

群馬大学を卒業後、群馬県、東京都、兵庫県などの様々な施設で勉強させていただきました。今後は目の前の患者さんに対して少しでも役に立てるような外科医でいられるよう、精進していきたく思います。御指導ご鞭撻のほどよろしくお願申し上げます。



竹ノ谷 隆
(87 回相)

この度、刀林会へ入会させていただきます。2008年に東京医科大学を卒業し、三井

記念病院や埼玉県立がんセンターで消化器外科の修練を行いました。2017年より荻窪病院に勤務し、村井信二院長をはじめ、諸先生方の御指導の下、地域における消化器外科診療に従事しております。御指導、御鞭撻のほど、よろしくお願いたします。



刀 林

▽近況報告 50回生



安藤 暢敏 (50回)

2013年に東京歯科大
学市川総合病院を定年退任
した後、国際親善総合病院
でお世話になっていました。
生まれ育った横浜で、上り
の通勤ラッシュを横目で見
ながら郊外へ電車通勤して
います。病院長職も前職よ
り通算13年目になりました
が、初めて経験するコロナ
禍の困難な日々の中で、院
内多職種間の一体感をこれ
まで以上に強く感じるこ
とが多かったのは、不幸中の幸

でした。
休日には裏庭の畑で野菜
作りに精を出しています。
外科医には土いじりが良い
と先輩から言われ何となく
納得して始めましたが、有
機栽培なので害虫や時々出
没する台湾リスとの知恵比
で苦労しています。医療
従事者の妻もコロナワクチ
ン接種業務に翻弄されてい
るので、恨み節を含めた老
夫婦の味気ない会話が増え
ている昨今です。



細田 洋一郎 (50回)

昭和61年に当時の社会保
険埼玉中央病院で外科部長
になり、平成4年に名称変
更された埼玉社会保険病院
で副院長、同18年に院長を
拝命しました。その後、経
営母体である社会保険庁の
不祥事で病院が解体され、
平成20年に、現在、新聞や
テレビでお馴染みになった
尾身茂理事長のもと、独立
行政法人地域医療機能推進
機構 (JCHO) の院長とな
り、社会保険病院から
JCHO病院への移行に際し
尾身理事長が全くりセット
するという方針のもと、私
も東日本地区の理事院長と

して職務規程等すべて作
り、院長定年も65歳まで、
その後は理事長裁断で70歳
までとしました。私の場合、
移行期のためもあったで
しょうが71歳まで務め、現
在、診療報酬支払基金埼玉
支部で医療顧問として外部
からJCHO埼玉メディアカ
ルセンターのみならず、全
国57のJCHO病院の動静
を気にかける毎日を送って
います。お蔭様で、令和3
年の秋の叙勲もお受けしま
した。最後に、慶應関連病
院で唯一のJCHO病院を
今後もしっかりお願いしま
す。



飯田 修平 (50回)

近況と言えば、新型コロナ
ナ感染症 (COVID-19) で
す。2年間コロナ・コロナ
で明け暮れています。
COVID-19蔓延により、感
染症に対する考え方を改め
させられました。新型イン
フルエンザ対応の事業継続
計画 (BCP) を策定してい
ましたが、役に立ちません
でした。COVID-19対応の
BCPを策定しましたが、
変異株 (α, δ) の出現に

より、再々度改訂しました。
COVID-19蔓延を契機
に、以前から進行中の価値
観の転換が促進していま
す。これらの経験を、医療
界のみならず、品質管理学
会や安全工学会の研究会・
研修会開催、講演、学会報
告、報告書、雑誌、協会誌
で発信しています。全日本
病院協会『病院のあり方報
告書2021年版』を参照
ください。



1. 医療法人社団こうかん
会 理事長として、日本鋼
管病院を中心に職員ととも
に頑張っていますが経営で
四苦八苦。
2. 毎月、横浜の焼き鳥屋
で食道班大先輩の掛川先
生、有森先生を囲んで楽し
く飲んだり食べたりしなが
ら多くのご教示をお受けし



別所 隆 (50回)

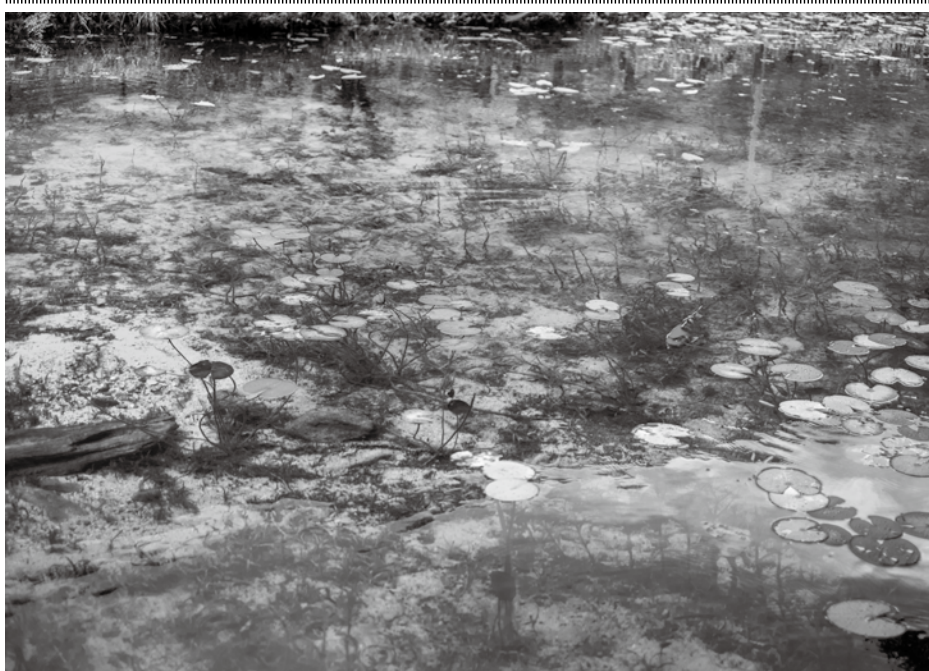
3. 趣味…料理好き、ワイ
ン好きの家に引つ張られ
てのグルメ旅。
ゴルフ 龍ヶ崎カントリー
クラブで三田会のメンバ
ーとのプレイが多いです。皆
さん紳士です。



大塚 秋二郎 (50回)

大震災の年(10年前)に
済生会宇都宮病院外科を定
年退職し、以後はリハビリ
医へ転身し、新設された巨
樹の会 宇都宮リハビリ
テーション病院に奉職して
おります。院長を務めてい
ましたが3年前に名誉院長
となり、現在も患者を受け
持ち、EV使用せずにB1
〜4F間を(飛ぶように)
はウソ)階段昇降しており

ます。しかし11月に誕生日
で後期高齢者となったとた
ん、健康保険や運転免許の
扱いが変わり、否応なく自
分の年を認識させられまし
た。昨年、新型コロナ肺炎
で兄があつという間に亡く
なり、呆然としましたが、
現役医師として働ける健康
のありがたさを痛感し、妻
と連日ウォーキングに励ん
でいるこの頃です。



追悼

神野哲夫先生を偲んで

慶應大学4年先輩の神野先生に最初にお会いしたのは今から57年以上前、私が慶應大学のバレー部に入学した時からである。新入生歓迎会で顧問の浅見助教の隣に座っていた6年生の神野先生は、ひよつとした浅見先生よりも偉いのではないかとこの頃にふんぞり返っておられた。その頃はまだバレー部は九人制であり、高校時代にもバレー部に所属していた私と教育大付属出身の鹿島君といきなりレギュラーにさせられ、東日本医科大学体育大会で初めて六人制を試験的に行った時、六年生だった神野先生も少しだけ試合にでたのを覚えている。その後時々、練習の時にしごきにくるのだがボンとボールを出して触れないとコート1周ウサギ跳びをしてまた3分間のワンマンレシーブ、触るために跳びこむとその頃、東洋の魔女で流行り初めた回転レシーブをしるという。回転レシーブの体制で跳びこむと腰骨を打って、顔面蒼白になるそ

れでもそんなことを続けさせられて皆、腰に座布団をつけて練習していた。そのおかげで護身術は身についた。

卒業して脳神経外科に入ると、脳神経外科は紛争の煽りで工藤教授派と戸谷助教教授派に分かれており、神野先生は教育担当の工藤教授派におり、私を含め4名の新入局者は診療と研究担当の戸谷助教教授側に入ることになる。チーフレジデントを終了し、一旦は大学を離れなければいけない時、行くなら大病院と想っていた私の所に、当時の新設の藤田学園名古屋保健衛生大学に講師として赴任していた神野先生が勧誘に来られ、名古屋に行くことになった。

あれから45年、31歳で来た名古屋に、もうすつかり名古屋人になったが名古屋弁はうまく話せない。第一回生のポリクリが始まり、各科病棟が開設された昭和51年のことであった。手術が好きでかつ得意であった私は、全ての手術を

引き受け、夜中もいつでも飛んできて手術に明け暮れていた生活であった。終わると神野先生は皆を食事に連れて行ってくれて楽しい時代であった。新しいことを考えるのが得意な神野先生に様々なことを教わった。「世の中政治だよ。裏の手を使わなくては」と言われ、「男は正面攻撃あるのみです」と返すとお前はまだまだ若いなあとよく言われたものだった。

引き受け、夜中もいつでも飛んできて手術に明け暮れていた生活であった。終わると神野先生は皆を食事に連れて行ってくれて楽しい時代であった。新しいことを考えるのが得意な神野先生に様々なことを教わった。「世の中政治だよ。裏の手を使わなくては」と言われ、「男は正面攻撃あるのみです」と返すとお前はまだまだ若いなあとよく言われたものだった。

卒中友の会、後に脳神経外科友の会で現在まで続いている。発案した後はすぐに次のものに目を向け、前のものは「あれはもう終わつた」と言つて手のひらを返したように次のことに進むので若手が前に言い出したことの事務的なことをしなければいけないというのが常であった。

いわゆる生粋の慶應であるが故に、いつかは慶應大学教授への野望を抱いておられ、あとの藤田を私に任せようと考えておられたので教授不在の8年間はツーカーの仲であった。しかし8年間のツーカーの時代があったからこそ何を考えておられるのか手に取るようにわかった。

水の上先生と戸谷先生との教授選が延期になつて5年、神野先生と戸谷先生との戦いが戸谷先生に決まつた時、戸谷先生が教授になられた時、それなら次は私も慶應教授選にと口を滑らせた途端、最大のライバルになつてしまい、情報一切が私の耳にはいらなくなつて

しまった。その後、戸谷先生が辞めた後の慶應の教授選の時は藤田を辞めてから教授選に出よとの言葉に仕方なく書類を引っ込めた。神野先生と小生の同級生の河瀬先生の戦いとなり、神野先生に軍配が上がりそうな流れが一転して結果は河瀬君になった。

その後、当時の山路理事長のお考えで神野先生が脳外科主任教授をおりて院長職に就き、私が脳外科の主任教授になるように言われた時、脳神経外科が病院の稼ぎ頭であることが院長としてやりやすいとわかり、お互いまたいい関係が復活した。先を見越して時代の流れに即した会を立ち上げることの能力はさげ抜けて

いる。それには足元にも及ばないが私の得意とする手術腕一筋と表裏のない心で以てこの先歩んでいけたらと神野先生がおっしゃる最終楽章を私なりに刻みたいと思つている。

自宅前で転倒され、藤田に救急搬送されたと聞いた翌日に伺い、毎週お見舞い

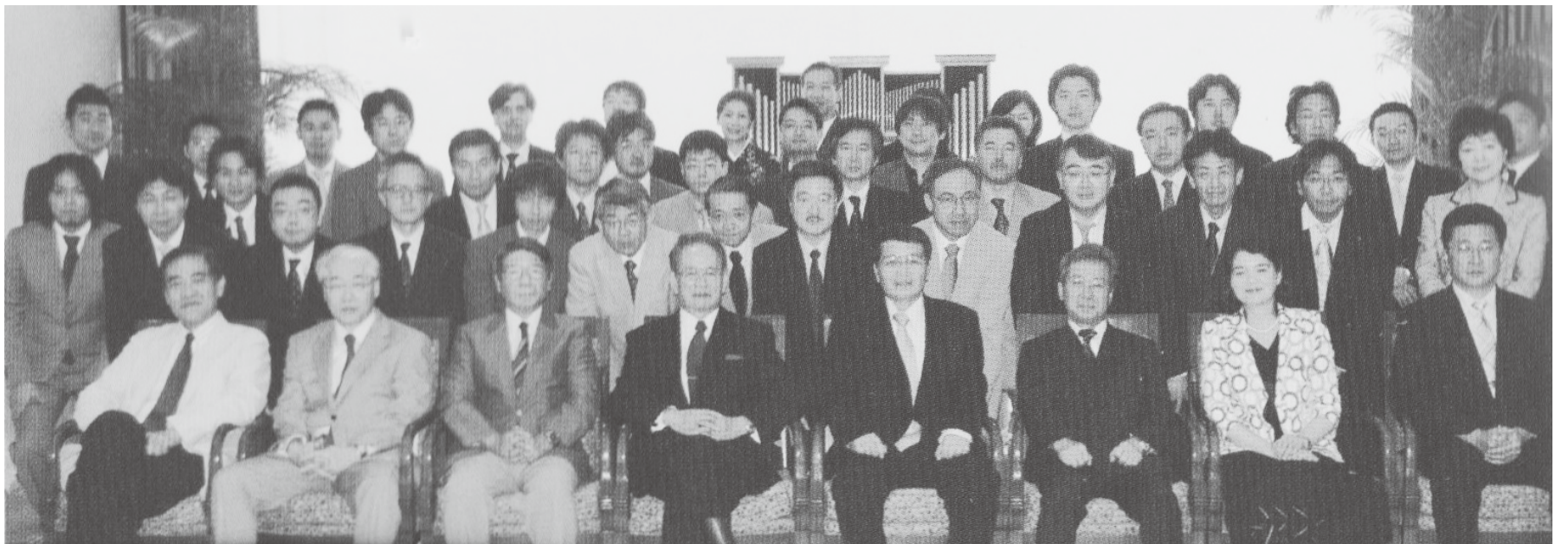
に行き、やあと手を挙げてくれるまでに回復されたがあつという間に持病の心臓が原因で召されてしまいがあつけない別れに驚いた。しかしプライドを何よりも重んじていた神野先生にとつては半分寝たきりのような生活は耐えられなかったのかもしれない。

ひと、様々な生き方があ

るのだとあらためて感じたが旧名藤田保健衛生大学を世界的に有名にしたことに異論はない。天国でも新しい本の執筆に忙しくしておられるかもしれないが安らかに眠つていただきたいと思つています。ご冥福をお祈りしております。合掌

藤田医科大学名誉教授
総合新川橋病院
副院長・脳神経外科顧問
佐野 公俊(49回)

合掌



診療体系グループ紹介

一般・消化器外科 乳腺班



慶應義塾大学医学部外科 (一般・消化器) 林田 哲 (77回)

一般・消化器外科 乳腺班は、林田哲(77回生)を班長として、高橋麻衣子(79回生)・関朋子(85回生)・永山愛子(86回生)からなる計4人のスタッフおよび大学院生を含む7名のレジデントが在籍しています。北川教授にご指導をいただき、平成29年度から今までは個別に対応を行っていた形成外科・腫瘍センター・緩和医療センター・産婦人科とともに診療クラスターの再編を行い、新たに慶應病院プレストセンターを立ち上げました。これにより、急速に需要が拡大している乳房再建術や、若年性乳がんにおける妊よう性温存について、円滑な連携を行うことが可能となりました。また、遺伝性乳癌卵巣癌症候群(HBOC)に対する昨今の保険医療の整備に伴い、遺伝カウンセリングを含む連携体制の構築が乳腺診療において重要な位置を閉めつつありますが、臨床遺伝学センターとの連携を通じて、スムーズでしつかりとした対応が可能な仕組みを構築することができました。このセンター化に伴つ

て乳がん手術患者数は急速に増加しており、2019年はセンター化前の約1.6倍の手術数となり、2020年はコロナ禍で一時減少を認めましたが、2021年は2019年とほぼ同様の水準まで症例数の回復を認めています。今後も首都圏の乳癌診療において、慶應病院として果たすべき社会的な役割をしっかりと見据え、日々努力を継続していきたいと考えております。

な研究カンファレンスを通じて進捗を確認し、これらを慶應在任中に完遂させることを目標として掲げています。昨今はゲノム医療に代表される、生物学的な多様性に対応した個別化医療が乳癌診療においても深く浸透しており、固形癌に関する基礎医学の深い理解が必要とされるため、これら研究活動を行うことが臨床医としての価値を高めると考えられます。また、人工知能による画像診断システムの開発・構築や、IoT技



術を用いた患者のQOLを高める新しい試みも当班で行っており、内外で高い評価をいただいています。これらの活動に若手医師が参加し、近未来のがん医療を切り開いていただけると考えています。そのためには、今後も刀林会の先生方からの変わらぬご支援が必要であると心より実感しております。至らない点が多々あると存じますが、ご指導いただけますよう、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

当院は神奈川県川崎市幸区にある有床診療所(19床)で、昭和62年に開院して以来、30年以上に渡って川崎市幸区や横浜市鶴見区の地域医療に真摯に取り組んでまいりました。2020年8月に松井康信前理事長・院長からクリニックを承継し、理事長・院長に就任。休床していた病床は2020年7月より稼働し、11月には手術室を再オープンさせ、手術を開始しました。病床稼働後から救急車を積極的に受け入れ、2021年1月には神奈川県より救急医療機関の認定を受けております。当院はCT、MRI(1.5T)を完備し、通常の診察と治療に加え、脳ドックによる予防医療にも力を入れております。脳神経外科以外にも、一般内科や整形外科専門外来、消化器外科専門医による消化管内視鏡検査、さらに最新のエコーとホルター心電図を導入し、循環器外来も行っております。最近では、乳児の頭蓋変形症に対する頭蓋矯正ヘルメットという新しい治療も開始しました。私は河瀬斌名誉教授に憧

当院での初めての手術光景

開業



医療法人社団康久会 川崎中央クリニック 理事長・院長 市村 真也 (81回)

れて入局以来、長年にわたって頭蓋底外科に携わってまいりました。ドイツ臨床留学後ではハノーファーにあるInternational Neuroscience Instituteのサミー教授やベルタランフィー教授から脳幹部手術を学び、帰国後は脳幹部手術を立ち上げ学術活動をしてきました。今後は3人の巨匠からの教えを基に、自分なりの頭蓋底外科や脳幹部手術を自分の手術室で追究するという、脳神経外科医としての新しい夢に向かって全力で突き進んでまいります。また、これまでに20本以上の英文論文を作成してきた経験を生かして、英文論文を世界に発信できるクリニックを目指します。経営者としての夢は、医局から人事派遣をしていただけぐらいに当院をより大きな組織にすることで、現在も脳神経外科医局から外来担当の外科医の派遣をしていただいております。都心部に近い立地を生かして、医局からも若手の先生方も選ばれる、諸な環境を作り上げていきたいです。



療に一層貢献していきたいと思っております。刀林会の諸先生方には、今後も引き続きご指導を賜りますようお願い申し上げます。 <https://kawasaki-chuo.jp/>

慶應義塾大学病院 外来 外科担当表

初診外来(午前)

一般・消化器外科

北川雄光 阿部雄太 八木洋 尾原秀明 北郷実 川久保博文

小児外科

黒田達夫 高橋信博 交代制 山田洋平 加藤源俊 山田洋平 加藤源俊 藤野明浩

各月変更

心臓血管外科

伊藤努 山崎真敬 木村成卓 志水秀行 泉田博彬 高橋辰郎 秋山章

呼吸器外科

朝倉啓介 浅村尚生 政井恭兵 加勢田馨 菱田智之 大久保祐 浅村尚生 大久保祐

脳神経外科

秋山武紀 佐々木光 戸田正博 田村亮太 三輪点 高橋里史 植田克洋 水谷克洋

特殊外来(午前)

月 血管 肝胆膵

松原健太郎 北郷実 尾原秀明 岡林剛史 高橋麻衣子 中野容

特殊外来(午後)

月 肝胆膵・移植 食道・胃

北郷実 川久保博文 松田諭 朝倉啓介 阿部雄太 田中真之

内視鏡 呼吸器(漏斗胸) 呼吸器(気胸) 免疫療法 脳腫瘍補助療法II 小児移植(第1・3)

中村理恵子 政井恭兵 高橋麻衣子 加勢田馨 戸田正博 佐々木光 星野健 北川雄光 関周太 堀周太郎 尾原秀明 松原健太郎 菱田智之

腫瘍センター外来(午前)

月 初診 乳腺

北川雄光 永山愛子 林田哲 関 朋子 林田 哲

腫瘍センター外来(午後)

月 乳腺 水 乳腺 木 乳腺 金 乳腺

永山愛子 林田哲 関 朋子 林田 哲 高橋麻衣子 永山愛子

小児移植(第1・3) 木 食道・胃 肝胆膵・移植 血管 呼吸器 脳・定位放射線(第1)

小児移植 小児外科 小児外科 小児外科 小児外科 小児外科 小児外科 小児外科

編集後記

脳神経 小児 呼吸器 脳・てんかん(第2)

秋山武紀 加藤源俊 大久保佑 杉山一郎

コロナワクチン接種も進み感染者数も驚くほど減り、いよいよコロナも収束かと期待していると、オミクロン株などという変異株が南アフリカで発見され、瞬く間に日本にも上陸、再び予断を許さない状況となってきた。このようなコロナの喧騒の中にあつて、最前線でコロナに立ち向かうと共に外科のそれぞれの分野で最先端の治療や研究に邁進したり、地域医療に深く関わり、なくてはならない存在となつている刀林会の方々の近況を刀林新聞から知る度に、私が学生時代に臨床講堂に飾られていたヒポクラテスの言葉「Ars longa, vita brevis.」が思い出される。これは、人の一生は短いが医術は奥が深く、極めるまでの道は遠い、だから、医を学ぶ者は怠らず励むべし、という意味だと理解しているが、ヒポクラテスの分身の活躍には、毎回勇気づけられている。

委員長 長

副委員長 長

顧問 長

顧問 長

委員 長

編集委員

川村 雅文 石井 良幸 佐藤 周三 磯部 陽 小澤 壯治 古梶 清和 儀賀 理暁 齋藤 淳一 藤野 明浩 大塚 崇 下島 直樹 落合 大樹 吉武 明弘 木村 成卓 松原健太郎 中村理恵子 松本 暁子

教室秘書入職のご挨拶



曾我 紀里子

2021年4月より外科学教室の秘書としてお世話になっております曾我紀里子と申します。少しでも先生方のお役に立てるよう、日々精進して参ります。今後ともご指導賜りますようお願い申し上げます。



計報

堀内 弘君 (33回) 令和2年11月28日

東 志文君 (33回) 令和3年6月18日

神野 哲夫君 (44回) 令和3年8月6日

重松 有君 (47回) 令和3年11月14日

刀林会ホームページが アクセスしやすくなりました。

外科学教室 ホームページにアクセス <http://keiosurg.umin.jp/>

同窓会 をクリックしてください。

ID、パスワードの入力の必要はございません。 よろしくお願いたします。

刀林会会員管理システムについて

郵便物発送先、一斉メールにてのお知らせなど「刀林会会員管理システム」にておこなっております。 メールアドレス、ご勤務先、ご自宅住所などのご変更があった場合は、ご自身にてアップデートしていただくことを お願いいたします。

開業についてのお知らせ

開業の際は、同窓会へご連絡をお願いいたします。 記念に刀林会より盾を進呈いたします。 よろしくお願いたします。



<刀林会 事務局> 〒160-8582 新宿区信濃町 35 慶應義塾大学医学部外科同窓会事務局 TEL: 03-5363-3800 FAX: 03-3359-9130 tourin-h@keio.jp